

大正大学 学生による授業評価アンケート [2018 春] 結果分析報告

# 学生による授業評価アンケート結果分析報告

大正大学 2018 春

株式会社ディーシーアイ

本書面は、授業評価アンケートの結果分析を通じて、授業改善に向けた課題形成に資するデータを提供することを目的に起草したものです。評価項目間の相関から因果関係を探り、更なる授業改善への手がかりの特定を試みるとともに、過年度からの推移も把握のため必要に応じて比較データを掲載しています。

## 目次

1. 全体概況 .....	3
2. 領域ごとの集計値にみる過去 4 回の推移とサマリー .....	5
3. 項目別集計結果 .....	7
参考資料 1 実施率／回収率 .....	19
1-1 アンケート実施率（回収率）科目区分別 .....	20
1-2 アンケート実施率（学部） 2005 年度春学期～2018 年度春学期 .....	21
参考資料 2 自由記述回答 頻出キーワード分析 .....	23
＜集計グラフ＞	
自由記述回答 頻出キーワード分析について .....	24
全学 .....	25
学部別 .....	26
回答人数帯別 .....	27
学年別 .....	28
出現率前回比較 全学 .....	29
出現率前回比較 学部別 .....	30
出現率前回比較 回答人数帯別 .....	34
出現率前回比較 学年別 .....	37

## ■全体概況

授業評価に際して採用した質問文と、それぞれの平均および標準偏差<sup>1</sup>は下表に示す通りです。  
無回答を除いた回答分布をもとに以下の方法で点数に換算してあります。

「5 そう思う」…5点、 「4 どちらかと言えばそう思う」…4点 「3 どちらともいえない」…3点  
「2 どちらかと言えばそう思わない」…2点 「1 そう思わない」…1点

質問	質問内容	平均						標準偏差				
		年	18	17	16	15	14	18	17	16	15	14
Q1	教員は、この授業の到達目標をはっきりと示した	春	4.51	4.47	4.46	4.47	4.47	0.33	0.33	0.34	0.33	0.34
		秋		4.49	4.47	4.48	4.51		0.32	0.34	0.35	0.32
Q2	教員は、学生がその目標を達成できるよう、意欲的に取り組んだ	春	4.51	4.48	4.46	4.47	4.47	0.32	0.33	0.34	0.34	0.34
		秋		4.48	4.47	4.48	4.51		0.32	0.34	0.35	0.3
Q3	教員は、シラバスに記載された内容を適切に扱った	春	4.48	4.43	4.40	4.41	4.39	0.31	0.33	0.35	0.33	0.33
		秋		4.43	4.41	4.41	4.44		0.32	0.33	0.34	0.32
Q4	教員は、この授業の課題、準備・復習をするよう具体的に指示した	春	4.38	4.35	4.32	4.32	4.33	0.38	0.40	0.41	0.40	0.40
		秋		4.35	4.35	4.35	4.36		0.38	0.40	0.40	0.39
Q5	教員は、学生からの質問や相談に十分に応じる姿勢を示していた	春	4.54	4.51	4.49	4.50	4.50	0.32	0.33	0.36	0.35	0.35
		秋		4.50	4.51	4.51	4.54		0.33	0.35	0.36	0.33
Q6	教材や教具は適切であり、授業理解を深める上で効果的であった	春	4.44	4.40	4.37	4.39	4.37	0.35	0.36	0.38	0.36	0.38
		秋		4.39	4.37	4.39	4.42		0.36	0.38	0.38	0.35
Q7	私は、この授業の目標を達成すべく、真剣に授業に臨んだ	春	4.36	4.31	4.28	4.27	4.26	0.31	0.33	0.34	0.33	0.35
		秋		4.31	4.28	4.28	4.30		0.32	0.34	0.35	0.32
Q8	私は、わからないことを質問したり調べたりして、その解消に努めた	春	4.14	4.07	4.00	4.00	3.99	0.37	0.38	0.42	0.40	0.41
		秋		4.10	4.04	4.06	4.07		0.37	0.42	0.42	0.40
Q9	私は、この授業の到達目標を達成できた(できる)	春	4.11	4.05	4.00	4.00	3.97	0.35	0.35	0.38	0.36	0.37
		秋		4.06	4.02	4.03	4.06		0.35	0.37	0.38	0.36
Q10	私がこの授業で得たものは、今後の学習活動や人生に生きる	春	4.39	4.35	4.33	4.34	4.31	0.35	0.36	0.38	0.36	0.38
		秋		4.35	4.34	4.36	4.37		0.35	0.37	0.37	0.35
Q11	私は、この授業を受けてこの科目や関連分野が好きになった	春	4.16	4.12	4.09	4.14	4.10	0.44	0.45	0.49	0.45	0.48
		秋		4.12	4.12	4.15	4.17		0.45	0.47	0.45	0.43
Q12	全体として、この授業を受けてよかった	春	4.41	4.39	4.36	4.38	4.36	0.39	0.39	0.41	0.40	0.43
		秋		4.39	4.38	4.39	4.42		0.39	0.41	0.41	0.38
Q13	あなたのこの授業の出席率はどれくらいでしたか	春	4.54	4.53	4.52	4.56	4.59	0.26	0.29	0.28	0.25	0.26
		秋		4.45	4.46	4.49	4.51		0.28	0.28	0.29	0.28
Q14	この授業のための課題、準備・復習に何時間取り組みましたか	春	2.90	2.86	2.88	2.78	2.85	0.59	0.57	0.61	0.65	0.65
		秋		2.95	2.96	2.83	2.91		0.62	0.66	0.68	0.67
全質問合計(Q13、Q14を除く)		春	4.37	4.33	4.30	4.31	4.29	0.31	0.31	0.33	0.32	0.33
		秋		4.32	4.31	4.33	4.35		0.31	0.33	0.34	0.31

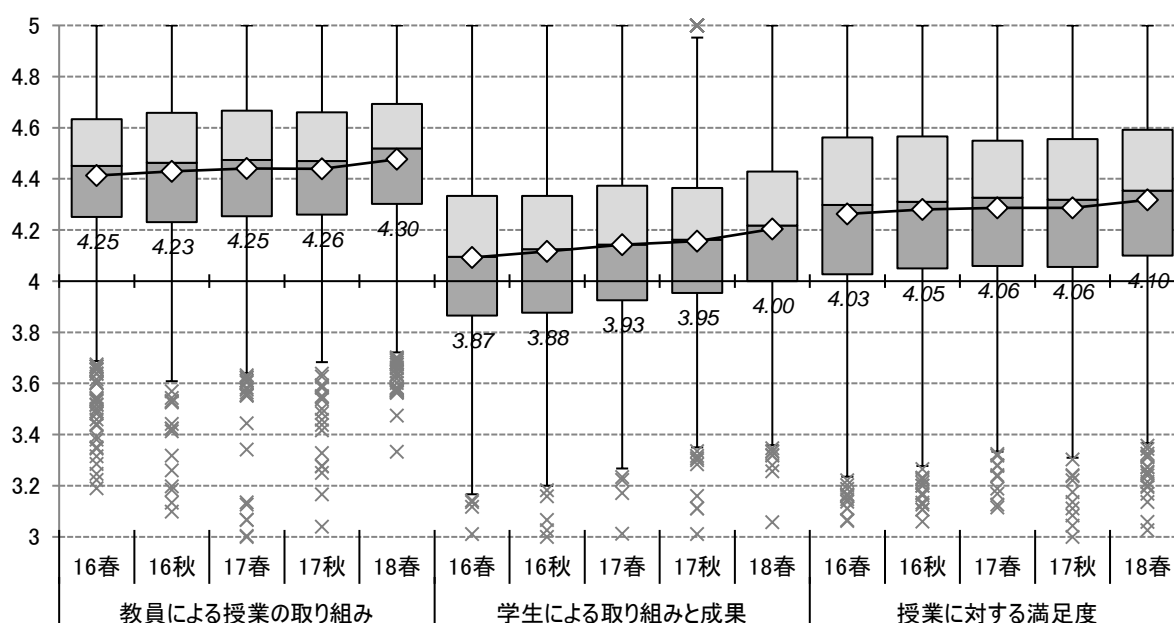
<sup>1</sup> 表中の数値「平均」及び「標準偏差」は、授業ごとの評価集計値を元に算出したものです。別紙集計報告書では区分毎の回答から直接計算を行っているため計算結果は一致しません。

昨年同時期（2017 春学期）との比較では、Q12 総合評価と Q13 出席率を除くすべての項目に統計的に有為な平均値の上昇が見られました。上昇幅が最も大きかったのは Q8 質問・調査努力であり、Q9 目標達成がこれに続きます。

昨年同時期比較	2017 春学期		2018 春学期		母平均の差	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	変動	t検定P値
Q8 質問・調査努力	4.065	0.383	4.138	0.374	+0.073	0.0000 **
Q9 目標達成	4.049	0.355	4.113	0.348	+0.064	0.0000 **
Q3 教員シラバス対応	4.430	0.329	4.479	0.307	+0.049	0.0001 **
Q7 授業に臨む姿勢	4.315	0.326	4.361	0.315	+0.046	0.0002 **
Q11 興味関心の向上	4.115	0.451	4.158	0.441	+0.043	0.0098 **
Q6 教材・教具効果	4.401	0.360	4.443	0.346	+0.043	0.0017 **
Q14 平均学習時間	2.860	0.568	2.901	0.594	+0.041	0.0428 *
Q1 教員目標明示	4.470	0.332	4.509	0.327	+0.039	0.0020 **
Q10 有用性	4.353	0.357	4.389	0.351	+0.036	0.0073 **
Q4 課題、準備・復習指示	4.349	0.398	4.380	0.380	+0.032	0.0244 *
Q5 教員質問相談対応	4.512	0.329	4.540	0.325	+0.028	0.0199 *
Q2 教員努力	4.482	0.329	4.508	0.317	+0.026	0.0263 *
Q12 総合評価	4.390	0.388	4.408	0.389	+0.018	0.1275
Q13 出席率	4.533	0.293	4.544	0.264	+0.011	0.1711

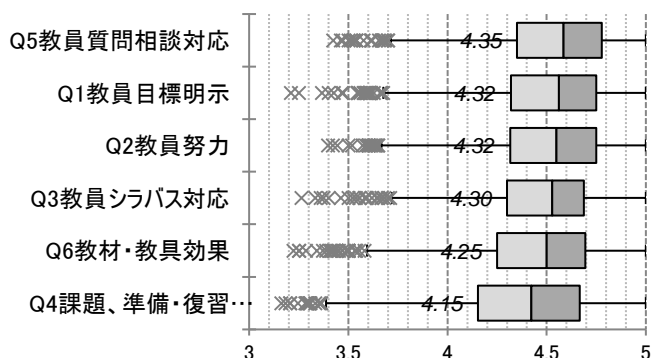
n=1,172 (17 春)、1,182 (18 春) 有意性の検定 \*: P<0.05、\*\*: P<0.01

評価領域ごとの集計値分布の変化を直近 5 回にわたり追跡してみた下の四分位図では、どの領域でも着実に改善が重ねられてきたことが読み取れます。平均値の上昇に加えて、箱の下端（第 1 四分位数）も高まってきています。「教員による授業の取り組み」では 4.30、「学生による取り組みと成果」では 4.00、「授業に対する満足度」では 4.10 を下回ると、全授業で下位 25% に含まれてしまうところまで、全学での授業改善が進んできています。



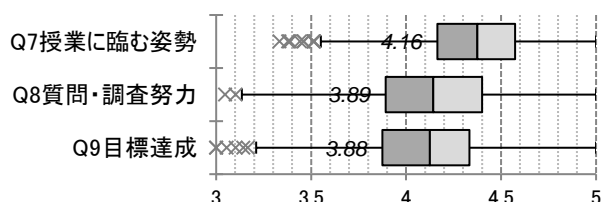
## 「教員による授業への取り組み」(Q1、Q2、Q3、Q4、Q5、Q6)

前述の通り、着実な改善が積み上げられてきています。項目別の集計値を中央値で降順ソートした右図に見る通り、Q5 教員質問相談対応、Q1 教員目標明示、Q2 教員努力、Q3 教員シラバス対応の4項目では、すでに中央値が4.5ポイントを超えています。一方、改善が遅れた授業がやや多く含まれているのはQ4 課題、準備・復習指示です。「どちらかと言えばそう思う」に相当する4.0に届かない授業が現時点で10.4%を占めます。



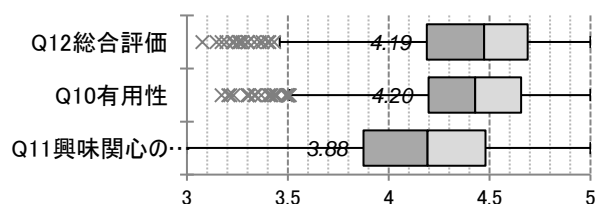
## 「学生による取り組みと成果」(Q7、Q8、Q9)

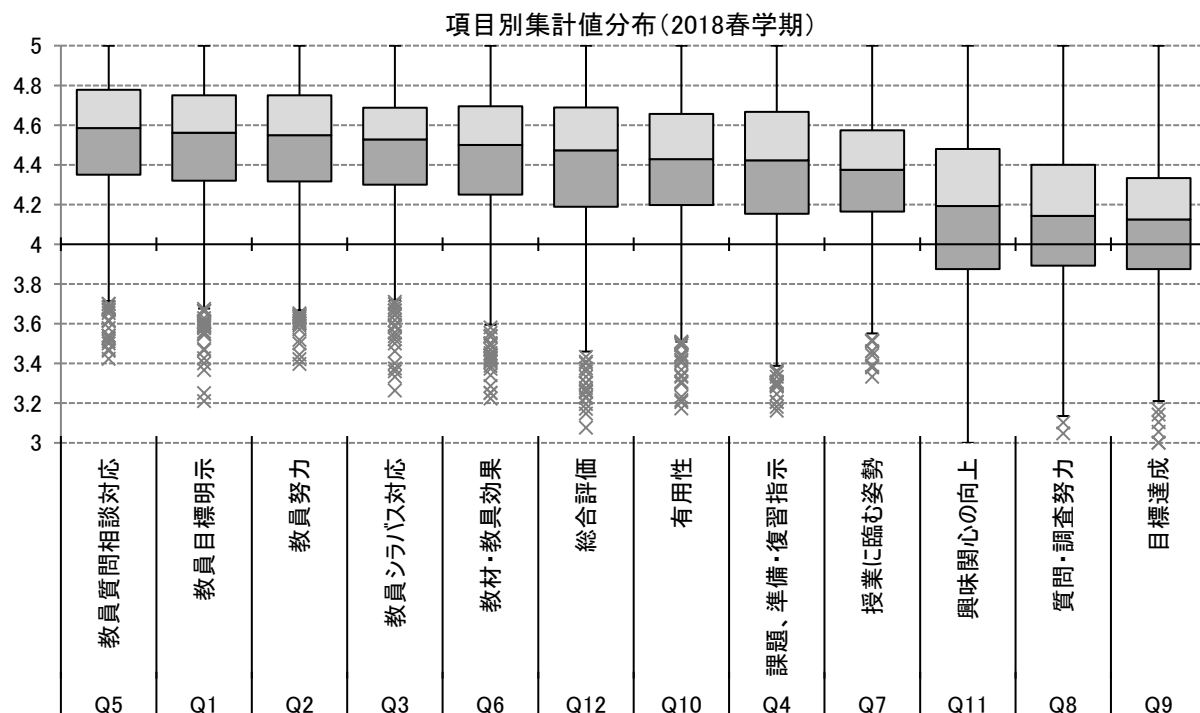
Q8 質問・調査努力、Q9 目標達成の2項目は、昨年同時期と比べてかなり大きく向上していますが、他項目と比べてみると依然として中央値は低めです。現段階でも箱の下端（第1四分位数）は「どちらかと言えばそう思う」に相当する4.0ポイントに達していません。特にQ8 質問・調査努力は、学生の「姿勢や意欲」から生じる行動であり、授業者側での直接的なコントロールは困難ですが、Q9 目標達成への影響は大きく、改善を急務とする授業も少なくありません。授業を通してその方法に習熟させるとともに、質問・調査への動機を持たせることで、間接的に行動改善を促していくのが唯一の方策かと存じます。



## 「授業に対する満足度（学びの成果）」(Q10、Q11、Q12)

昨年同時期と比べて大きく集計値が上昇したのはQ11 興味関心の向上です。3項目とも春学期としては、これまでで最も高い評価を得ていますが、Q11 興味関心の向上は相対的に低めの評価に止まるとともに授業間の差異も大きめと言えます。Q11 興味関心の向上を目的変数、Q12 総合評価を除く他の12項目を説明変数とする重回帰分析を行ってみたところ、統計的に有為な正の偏回帰係数が算出されたのは、Q10 有用性（偏回帰係数0.398）、Q9 目標達成（同0.345）、Q6 教材・教具効果（同0.334）、Q8 質問・調査努力（同0.170）、Q5 教員質問相談対応（同0.141）の5項目でした。特に有用性、目標達成、教材・教具効果の寄与度は大きく、これら3項目において各々の箱の下端（第1四分位数）を下回っているようであれば、当該項目での改善は喫緊の課題と言えそうです。





相関行列 (学生の回答から直接算出したもの)

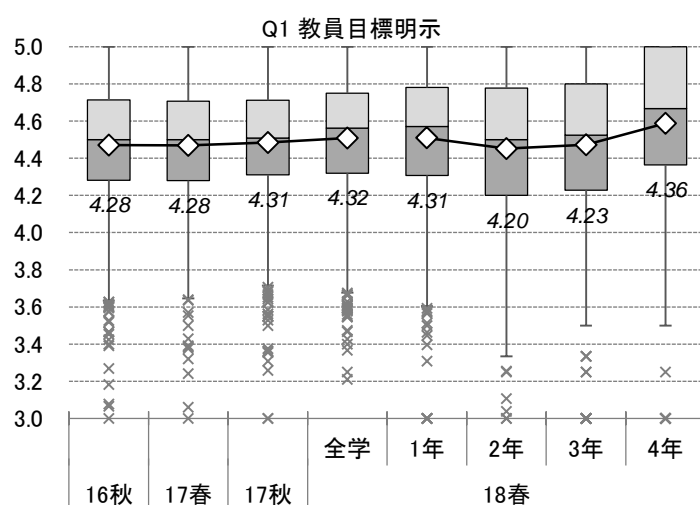
単相関	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1 教員目標明示		.81	.71	.63	.68	.69	.58	.48	.53	.61	.54	.63	.19	.19
Q2 教員努力	.81		.74	.64	.72	.73	.60	.49	.54	.62	.56	.66	.21	.18
Q3 教員シラバス対応	.71	.74		.61	.67	.67	.54	.44	.49	.56	.50	.58	.20	.16
Q4 課題、準備・復習指示	.63	.64	.61		.64	.61	.52	.52	.49	.52	.47	.52	.15	.29
Q5 教員質問相談対応	.68	.72	.67	.64		.71	.56	.48	.49	.58	.53	.61	.21	.17
Q6 教材・教具効果	.69	.73	.67	.61	.71		.61	.50	.55	.64	.61	.68	.19	.18
Q7 授業に臨む姿勢	.58	.60	.54	.52	.56	.61		.69	.70	.65	.61	.64	.31	.27
Q8 質問・調査努力	.48	.49	.44	.52	.48	.50	.69		.70	.58	.58	.54	.21	.34
Q9 目標達成	.53	.54	.49	.49	.49	.55	.70	.70		.65	.66	.61	.25	.28
Q10 有用性	.61	.62	.56	.52	.58	.64	.65	.58	.65		.73	.77	.24	.24
Q11 興味関心の向上	.54	.56	.50	.47	.53	.61	.61	.58	.66	.73		.78	.20	.26
Q12 総合評価	.63	.66	.58	.52	.61	.68	.64	.54	.61	.77	.78		.25	.22
Q13 出席率	.19	.21	.20	.15	.21	.19	.31	.21	.25	.24	.20	.25		.09
Q14 平均学習時間	.19	.18	.16	.29	.17	.18	.27	.34	.28	.24	.26	.22	.09	

相関行列中で上位 15%に含まれるセルに網掛けを施してあります。「教員による授業への取り組み」「学生による取り組みと成果」「授業に対する満足度 (学びの成果)」の各領域内の相関は総じて高めにれています。Q13 出席率や Q14 平均学習時間は他項目との相関があいまいですが、前者は Q7 授業に臨む姿勢と、後者は Q8 質問・調査努力との間でそれぞれ相対的に強い相関を示しています。

## ■項目別集計結果分析

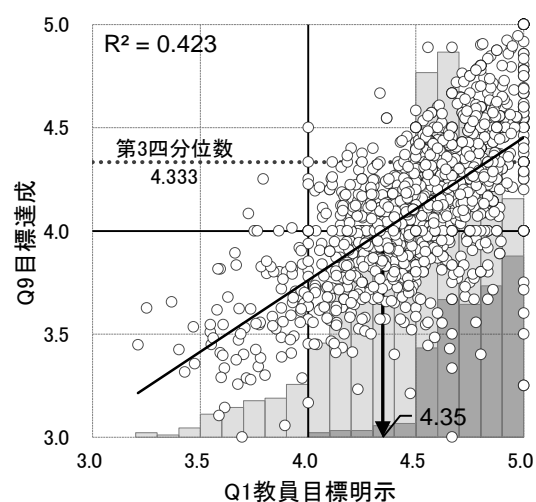
各項目に表示した図表は、授業別集計の分布を直近4回分の追跡、および当期の学年別で表示した四分位図と、他項目との単相関・偏相関の一覧です。四分位図において「箱」のすぐ下に表示した数字は第1四分位数です。この値未満の場合、集計区分内で下位25%に含まれることになりますので改善は急務とお考え下さい。また、単相関と偏相関の双方について各々の相関行列全体で上位25%に含まれる場合にそれぞれ網掛を施しました。因果の方向や第三要素の介在など考慮しなければならないこともあります。基本的には、高い偏相関で結ばれる項目はそれぞれ別に改善を図るよりもセットにして考えた方がうまく改善が運ぶケースが多いように思われます。

### Q1 教員は、この授業の到達目標をはっきりと示した

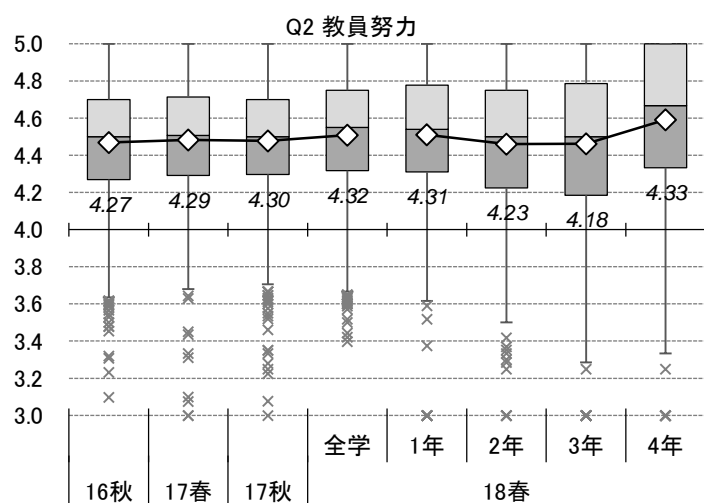


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示		
Q2 教員努力	.814	.436
Q3 教員シラバス対応	.710	.167
Q4 課題・準備・復習指示	.634	.126
Q5 教員質問相談対応	.683	.073
Q6 教材・教具効果	.690	.068
Q7 授業に臨む姿勢	.577	.027
Q8 質問・調査努力	.476	-.020
Q9 目標達成	.528	.033
Q10 有用性	.607	.056
Q11 興味関心の向上	.541	-.017
Q12 総合評価	.628	.042
Q13 出席率	.194	-.010
Q14 平均学習時間	.191	.008

Q1 教員目標明示「教員は、この授業の到達目標をはっきりと示した」は、引き続き高い評価を得ていますが、「どちらかと言えばそう思う」に相当する4.0ポイント未満の授業が現時点でなお7.3%を占めます。右図に見る通り、Q1 教員目標明示が4.0ポイント未満に止まりながらQ9 目標達成で4.0ポイント以上に達する授業は極めてまれであり、Q9 目標達成で上位1/4に含まれる授業（濃いグレーで描いたヒストグラム）は、その大半が4.5ポイント以上の評価を得ています。箱の下端（第1四分位数=4.32）に届かない授業では、シラバスに記述された到達目標が「学生の視点で達成が検証できる表現」を与えられており、且つ授業内でもその到達目標に頻繁に言及していたかをご確認いただく必要があります。近似線を大きく下回る場合は、Q9と高相関にある他の項目に到達目標の達成を妨げている要因（ボトルネック）が存在するはずですので、その項目での改善策を講じることが先決です。

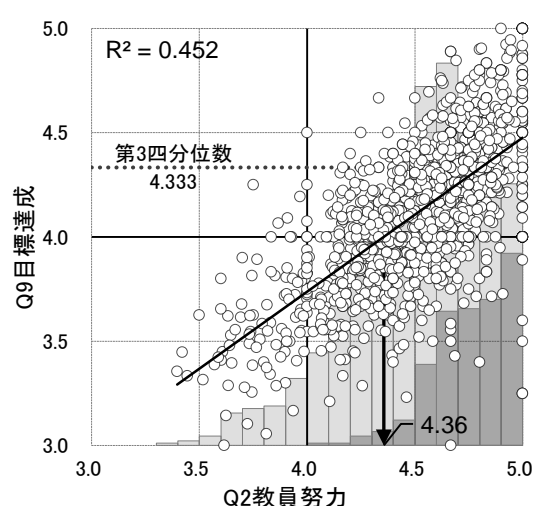


## Q2 教員は、学生がその目標を達成できるよう、意欲的に取り組んだ

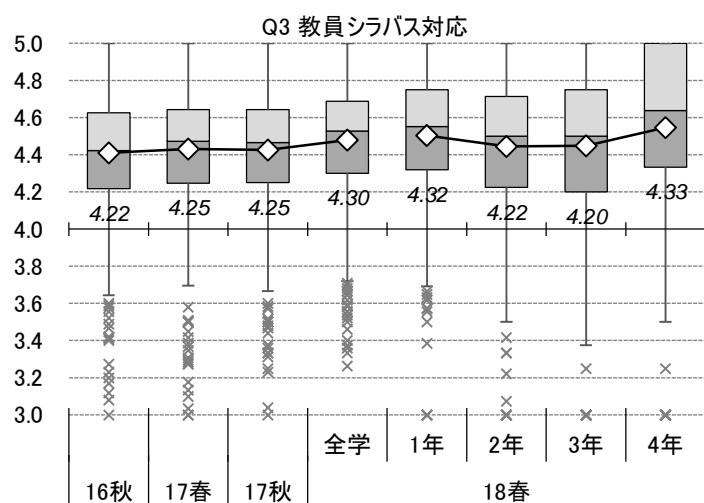


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.814	.436
Q2 教員努力		
Q3 教員シラバス対応	.737	.214
Q4 課題、準備・復習指示	.640	.075
Q5 教員質問相談対応	.725	.176
Q6 教材・教具効果	.727	.133
Q7 授業に臨む姿勢	.602	.065
Q8 質問・調査努力	.488	-.022
Q9 目標達成	.539	.007
Q10 有用性	.624	.025
Q11 興味関心の向上	.563	-.016
Q12 総合評価	.660	.087
Q13 出席率	.208	.000
Q14 平均学習時間	.179	-.029

着実に改善が進み、箱の下端（第1四分位数）は4.32まで高まってきました。この項目との間で高い偏相関を示しているのは、Q1 教員目標明示、Q3 教員シラバス対応、Q5 教員質問相談対応の3項目であり、「目標をはっきり示さない」「シラバスの記載を守らない」「質問や相談に不親切」といったことを（たとえ事実に反していたとしても）学生が感じ取れば、この項目で厳しい評価を受けることになりそうです。Q12 総合評価とも0.660と比較的高い相関を示しており、軽んじることのできない項目です。



## Q3 教員は、シラバスに記載された内容を適切に扱った

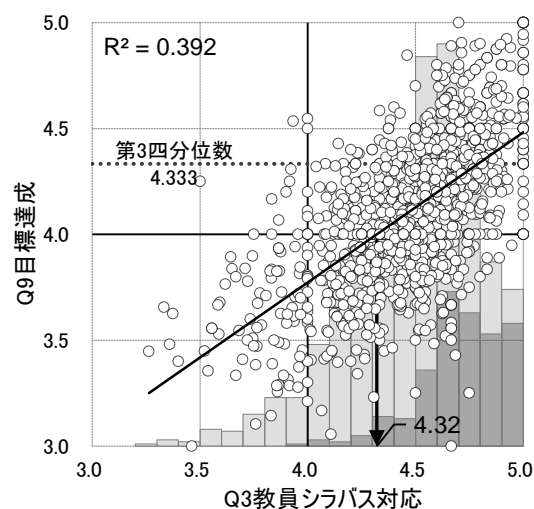


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.710	.167
Q2 教員努力	.737	.214
Q3 教員シラバス対応		
Q4 課題、準備・復習指示	.611	.134
Q5 教員質問相談対応	.666	.126
Q6 教材・教具効果	.673	.136
Q7 授業に臨む姿勢	.544	.033
Q8 質問・調査努力	.443	-.030
Q9 目標達成	.494	.031
Q10 有用性	.561	.026
Q11 興味関心の向上	.501	-.013
Q12 総合評価	.579	.004
Q13 出席率	.200	.030
Q14 平均学習時間	.159	-.033

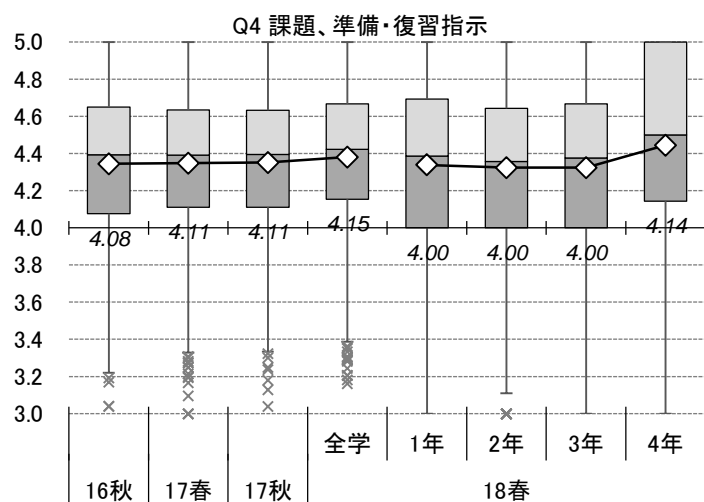
昨年の春学期と比べて大きく評価を伸ばした項目の一つです。4.0 ポイント未満の授業は全体の6.9%です。箱の下端（第1四分位数=4.30）に届かない場合、シラバスを起草する段階での



授業計画に見落としや練り込みの不足がなかったか点検してみる必要があると思われます。以前の報告書でも指摘した通り、シラバスを起草する段階で授業毎の教材、資料、進め方、学生の活動などがきちんと想定されていないと、途中での変更を余儀なくされ、シラバスに記載された内容を適切に扱うことができなくなります。「何を教えるか」という教授内容を指導カレンダー上に配列する前に「学生にどんな課題を与えるか／挑ませるか」の検討を先行させることが合理的で実行可能な指導計画を作る上で欠かせません。

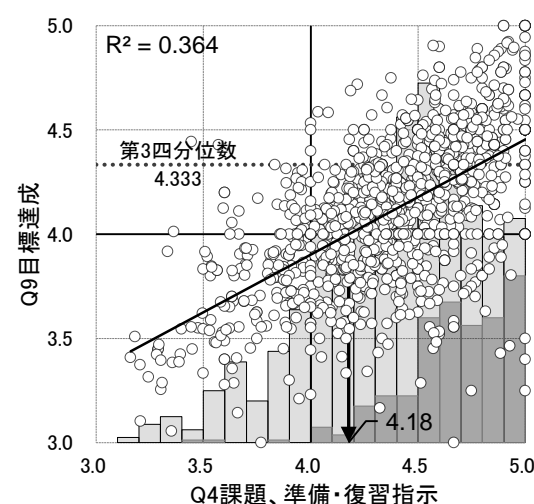


#### Q4 教員は、この授業の課題、準備・復習をするよう具体的に指示した



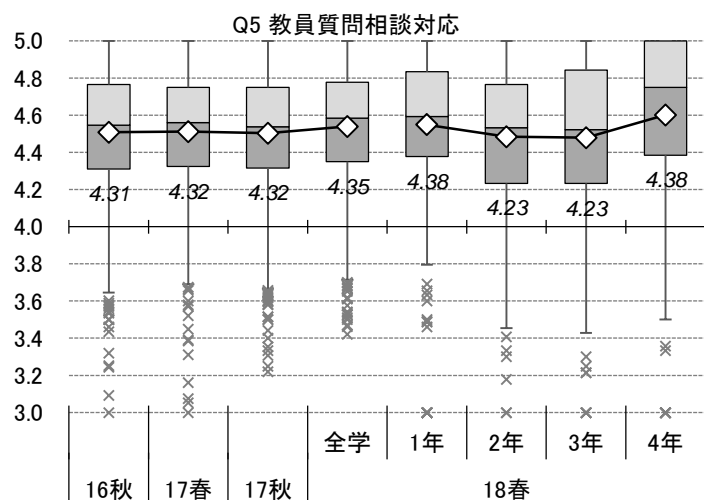
	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.634	.126
Q2 教員努力	.640	.075
Q3 教員シラバス対応	.611	.134
Q4 課題、準備・復習指示		
Q5 教員質問相談対応	.638	.194
Q6 教材・教具効果	.611	.100
Q7 授業に臨む姿勢	.520	-.005
Q8 質問・調査努力	.516	.147
Q9 目標達成	.489	.012
Q10 有用性	.517	.006
Q11 興味関心の向上	.473	-.023
Q12 総合評価	.520	-.027
Q13 出席率	.147	-.048
Q14 平均学習時間	.290	.169

単相関だけを見ると、Q2 教員努力との間の 0.640 以外に相関行列全体の上位 1/4 に含まれるものはありませんが、偏相関係数では Q9 目標達成への寄与度が大きい Q8 質問・調査努力や、十分な水準に引き上げるのに苦労が多い Q14 平均学習時間との間で比較的高い値が確認できます。箱の下端（第 1 四分位数）に届かない場合、具体的な指示を、十分な準備期間をもって与えることにこれまで以上の注力が必要とお考え下さい。近似線から下方に大きく離れた授業では、指示をこなせるだけのレディネス（調査方法への習熟や前提知識の確保など）を学生が備えているかの確認が必要かと思われます。また、個々の課題や授業準備・復習に取り組んだことが科目の到達目標にどう繋がるかを理解させないことには、取り組むことへの理由を学生が見いだせず、中途半端な履行が減らず目標達成を危うくします。



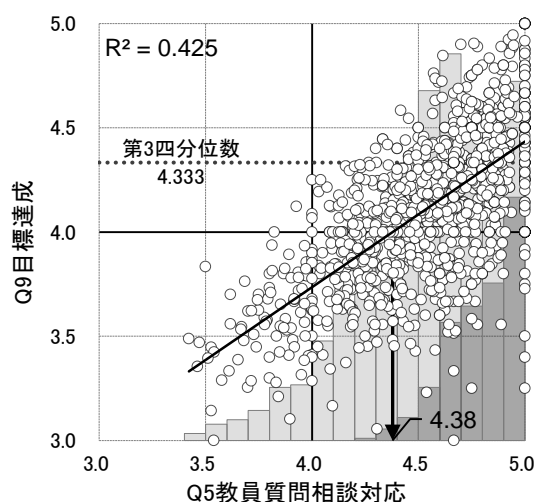
課題を持ち帰らせる前に、クラス内で論点をディスカッションをさせたり、グループで解決へのアプローチを考えさせると、課題解決に必要な知識の補完や調査方法の理解が進むと同時に個々の学生が「解き明かしたい不明や掘り下げたい興味」を見つけ、取り組むことへの自分の理由を見つけます。

## Q5 教員は、学生からの質問や相談に十分に応じる姿勢を示していた

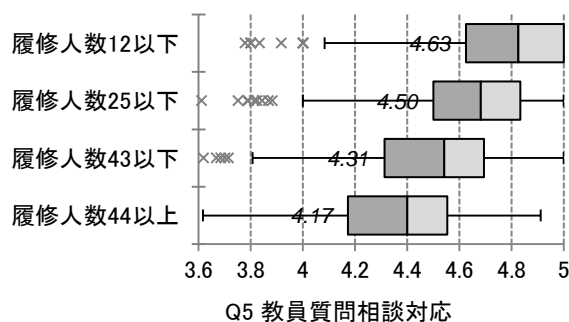


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.683	.073
Q2 教員努力	.725	.176
Q3 教員シラバス対応	.666	.126
Q4 課題、準備・復習指示	.638	.194
Q5 教員質問相談対応		
Q6 教材・教具効果	.706	.216
Q7 授業に臨む姿勢	.556	.016
Q8 質問・調査努力	.483	.058
Q9 目標達成	.493	-.041
Q10 有用性	.579	.017
Q11 興味関心の向上	.529	-.007
Q12 総合評価	.615	.071
Q13 出席率	.205	.037
Q14 平均学習時間	.166	-.051

引き続き、総じて高い評価を維持しています。中央値は 4.58 と十分に高く、4.0 ポイント未満の授業は全体の 6.4%に過ぎません。履修人数が多ければその分、学生一人ひとりとの対応に掛けられる時間が減りますが、履修人数を四分位数で区分し、それぞれの Q5 教員質問相談対応の集計値分布を示した右下の箱ひげ図では、比較的大規模の授業でも高い評価を得ている授業があることがわかります。少人数のクラスと大規模授業とで同じ方法は取れないとしても、規模に応じたやり方もありえそうです。

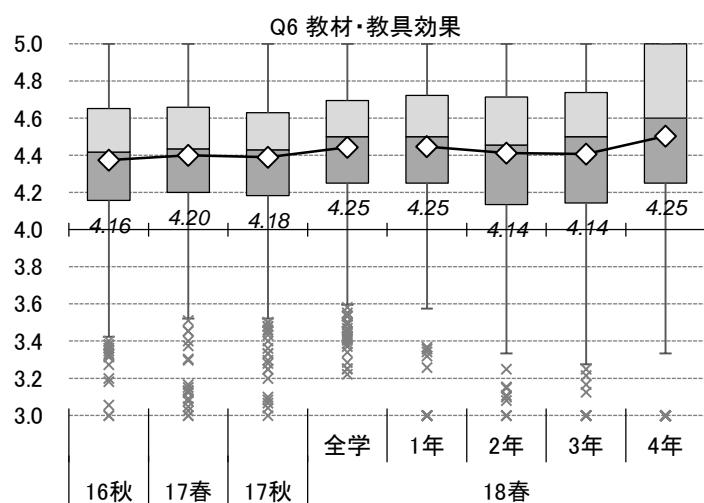


小規模授業であれば個々の質問・相談に答えることも十分に可能でしょうが、ある学生からの質問がその場のやり取りの中に閉じてしまう危険性もあります。「一人の疑問を起点にクラス全体での学びに展開する」には、質問や相談をシェアする仕組みも必要かと思われます。



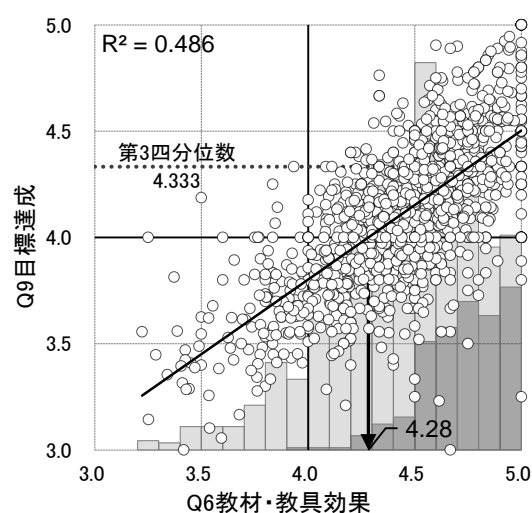
質問票やリフレクションシートで寄せられた質問から好適なものを選びだし、次の授業でディスカッションするなどの方法であれば、大規模クラスでも十分に対応ができるはずです。

## Q6 教材や教具は適切であり、授業理解を深める上で効果的であった

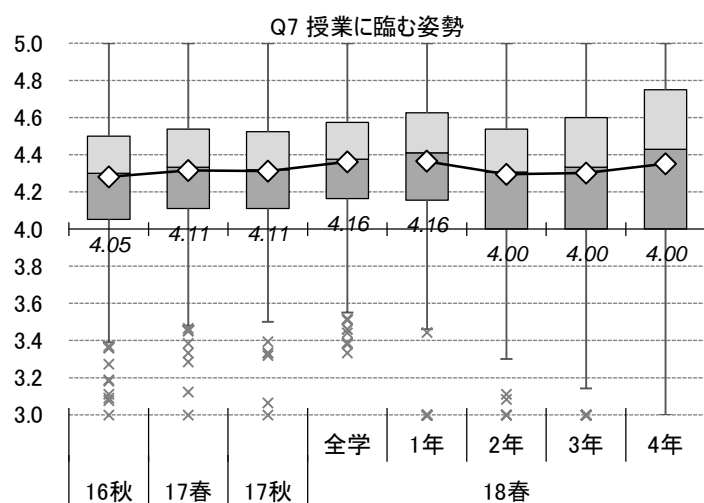


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.690	.068
Q2 教員努力	.727	.133
Q3 教員シラバス対応	.673	.136
Q4 課題、準備・復習指示	.611	.100
Q5 教員質問相談対応	.706	.216
Q6 教材・教具効果		
Q7 授業に臨む姿勢	.607	.090
Q8 質問・調査努力	.497	-.029
Q9 目標達成	.549	.012
Q10 有用性	.642	.060
Q11 興味関心の向上	.609	.075
Q12 総合評価	.682	.130
Q13 出席率	.192	-.037
Q14 平均学習時間	.178	-.041

しばらく改善が進まない状態が続いていましたが、今期は大きく集計値を伸ばしています。4.0ポイント未満の授業も 13.7%→11.2%→11.2%→10.4%→8.7%と減少しました。箱の下端（第1四分位数）は 4.25 ですので、この数値に満たない授業では改善を急ぐ必要があります。自由意見記述を拝読すると「スライドの字が小さい」「スライドの送りが早い」といった指摘のほかに、「使わない資料／情報が多すぎて要点がわからない」「資料が見にくい」といった意見も見受けられます。



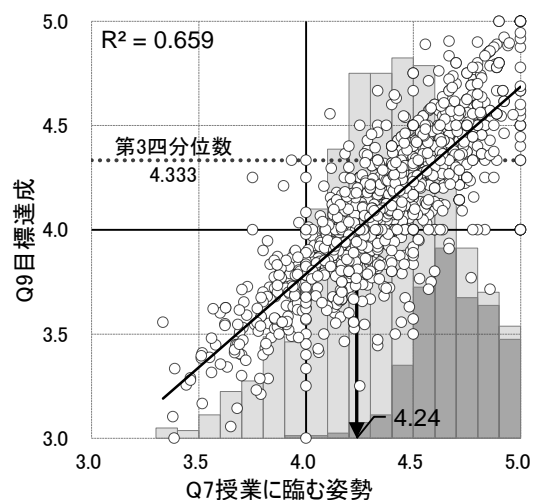
## Q7 私は、この授業の目標を達成すべく、真剣に授業に臨んだ



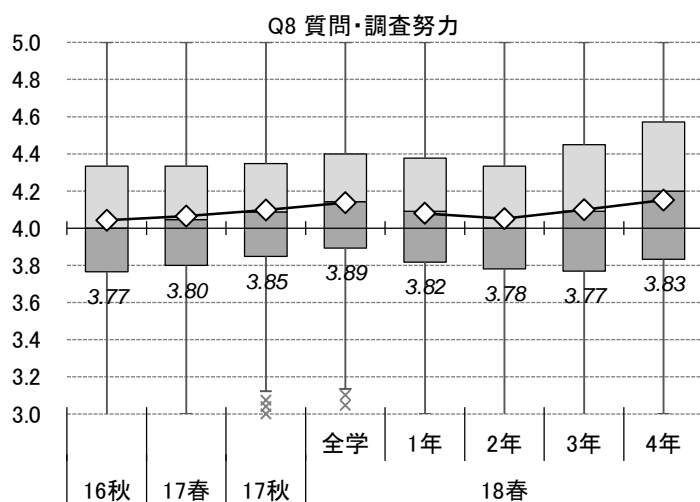
	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.577	.027
Q2 教員努力	.602	.065
Q3 教員シラバス対応	.544	.033
Q4 課題、準備・復習指示	.520	-.005
Q5 教員質問相談対応	.556	.016
Q6 教材・教具効果	.607	.090
Q7 授業に臨む姿勢		
Q8 質問・調査努力	.686	.301
Q9 目標達成	.699	.236
Q10 有用性	.646	.075
Q11 興味関心の向上	.614	.004
Q12 総合評価	.640	.082
Q13 出席率	.307	.151
Q14 平均学習時間	.268	.021

着実に改善が進んできています。Q8 質問調査努力や Q9 目標達成との間には、比較的高い偏相関がみられます。次ページの散布図では、第二象限が「ほぼ空白」になっており、真剣な取り組

みなしに目標が達成できるような授業はないという解釈ができますが、一方、第四象限に位置する授業では、「真剣に取り組んだけど科目の到達目標は達成できない」ということになります。原因は設定した目標が高すぎることだけではないはずです。Q1 から Q6 の「教員による授業への取り組み」に到達目標の達成を妨げているボトルネックがないかを確認することが先決です。前掲の通り、Q14 平均学習時間との相関は弱く、授業への真剣な取り組みを自己評価する基準が「出席した教室内での態度・行動」に限定されている可能性もありそうです。課題の難易度や到達目標の高さを調整する前に学生が十分な時間を投じて授業準備や復習に取り組んでいるか確かめる必要があります。

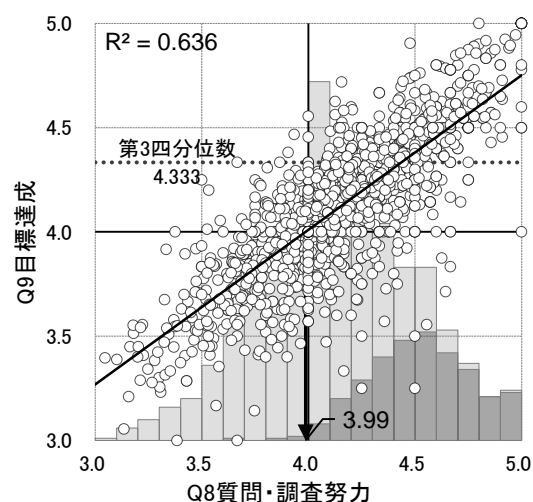


#### Q8 私は、わからないことを質問したり調べたりして、その解消に努めた

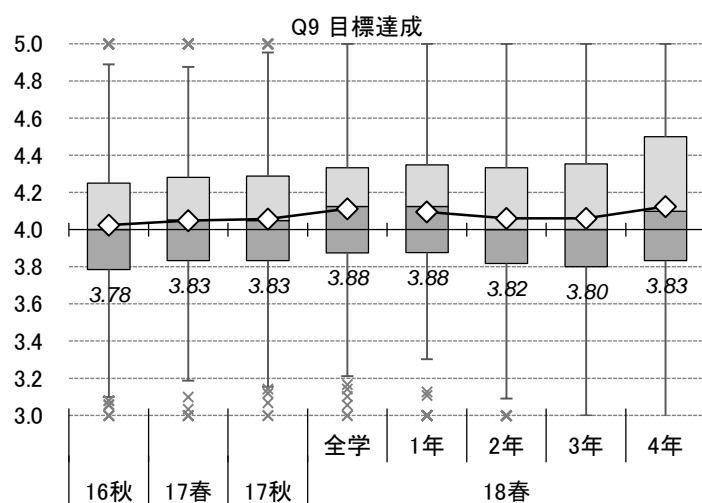


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.476	-.020
Q2 教員努力	.488	-.022
Q3 教員シラバス対応	.443	-.030
Q4 課題、準備・復習指示	.516	.147
Q5 教員質問相談対応	.483	.058
Q6 教材・教具効果	.497	-.029
Q7 授業に臨む姿勢	.686	.301
Q8 質問・調査努力		
Q9 目標達成	.697	.319
Q10 有用性	.576	.048
Q11 興味関心の向上	.583	.097
Q12 総合評価	.539	-.044
Q13 出席率	.213	-.012
Q14 平均学習時間	.343	.150

着実に改善が重ねられてきました。学年が上がるにつれて調査方策への習熟や学ぶ意欲の向上が図られていくものと仮定すると、2年生を上回るスタートを切った1年生は今後が楽しみです。偏相関はQ9 目標達成のほか、Q7 授業に臨む姿勢、Q14 平均学習時間との間で高く、この項目での改善、即ち「わからないことの所在に気づかせるとともにその解消の方法を学ばせること」が、実りある学習を実現する上で重要であると考えられます。以前の報告書でもお伝えした通り、不明の所在に気づかせするには、先生方からの問い掛けが欠かせません。また、学生自身に問いを立てさせる活動を取り入れてみるのも好適です。

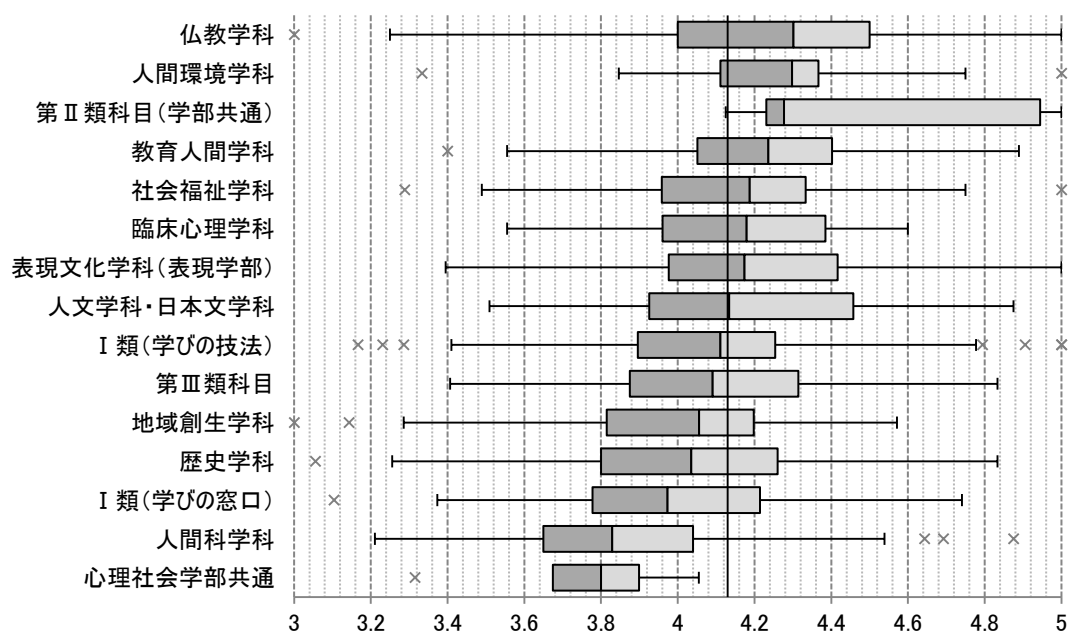
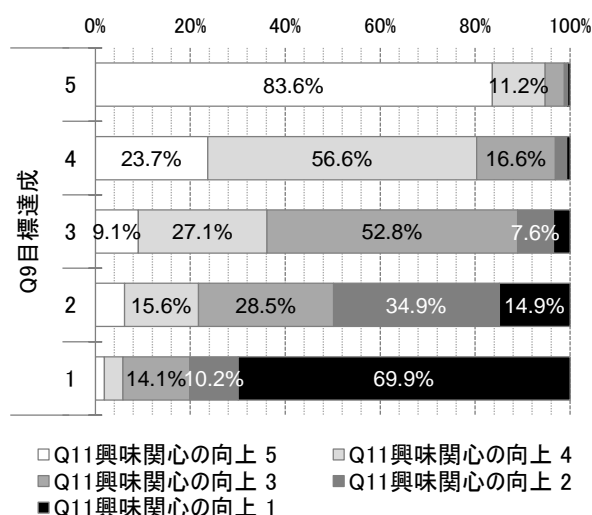


## Q9 私は、この授業の到達目標を達成できた（できる）

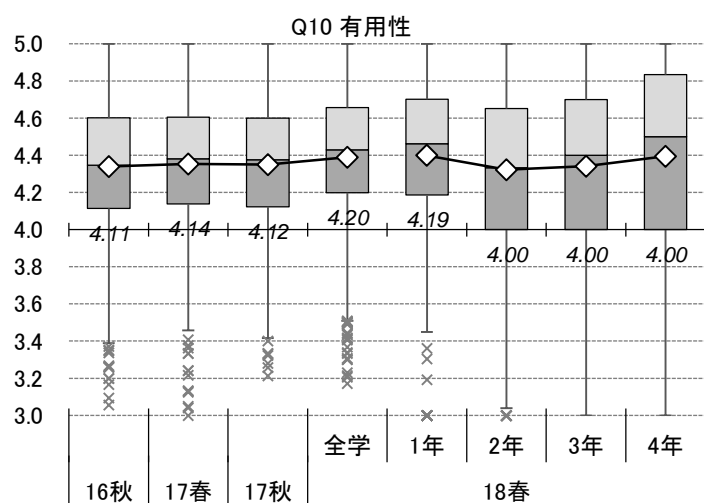


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.528	.033
Q2 教員努力	.539	.007
Q3 教員シラバス対応	.494	.031
Q4 課題、準備・復習指示	.489	.012
Q5 教員質問相談対応	.493	-.041
Q6 教材・教具効果	.549	.012
Q7 授業に臨む姿勢	.699	.236
Q8 質問・調査努力	.697	.319
Q9 目標達成		
Q10 有用性	.648	.124
Q11 興味関心の向上	.658	.194
Q12 総合評価	.612	-.011
Q13 出席率	.247	.044
Q14 平均学習時間	.283	.027

着実に改善が進んでいます。「解くべき課題」を与えて Q8 質問・調査努力を刺激すれば、Q7 授業に臨む姿勢も改善し、この項目の評価も押し上げることになろうかと存じます。また、右のクロス集計表から推測されるのは、Q9 目標達成で「5 そう思う」と答えさせれば 9 割を超える高い確率で Q11 興味関心の向上でも肯定的な回答が引き出せるということです。なお、下図（中央値で降順ソート）に見る通り、科目区分別の集計値分布にはかなり大きな差が生じています。



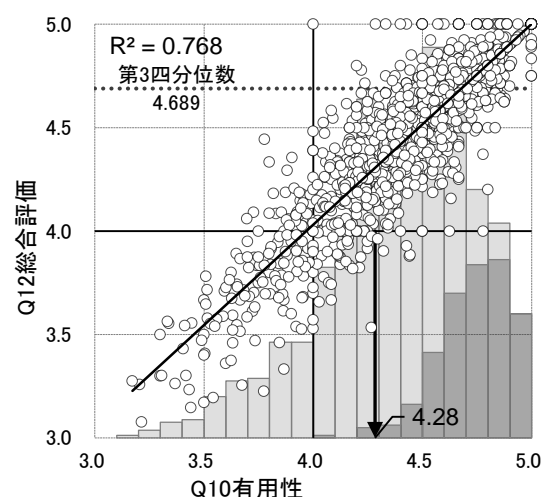
# Q10 私がこの授業で得たものは、今後の学習活動や人生に活きる



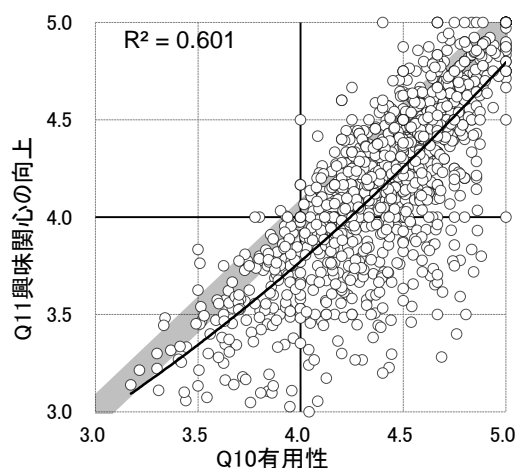
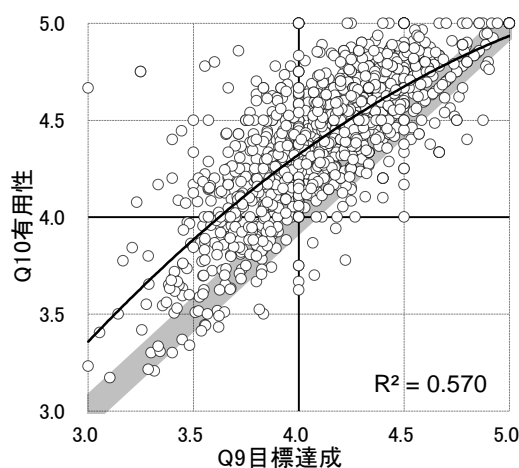
	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.607	.056
Q2 教員努力	.624	.025
Q3 教員シラバス対応	.561	.026
Q4 課題、準備・復習指示	.517	.006
Q5 教員質問相談対応	.579	.017
Q6 教材・教具効果	.642	.060
Q7 授業に臨む姿勢	.646	.075
Q8 質問・調査努力	.576	.048
Q9 目標達成	.648	.124
Q10 有用性		
Q11 興味関心の向上	.729	.209
Q12 総合評価	.769	.311
Q13 出席率	.242	.032
Q14 平均学習時間	.242	.014

箱の下端は4.20まで上昇しました。Q12 総合評価との相関もかなり高く、「授業で学んだことが今後の学習活動や人生に活きるかどうか」は「授業を受けてよかったかどうか」を大きく左右するようです。

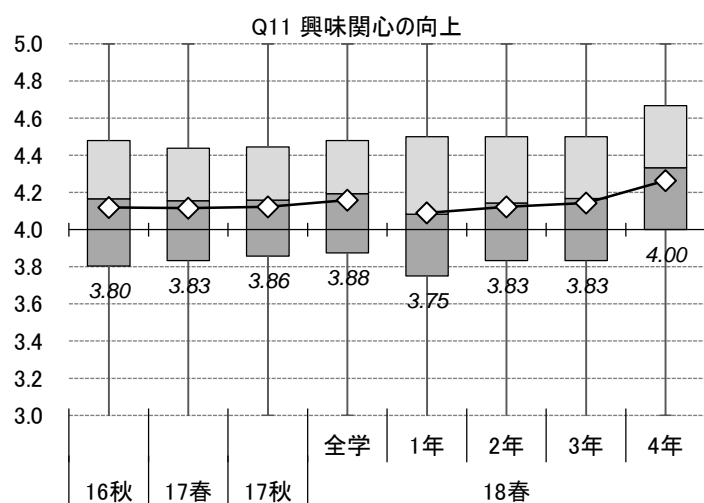
下左図の通り、Q9 目標達成の集計値を Q10 有用性の集計値が下回るケースは全体の 7.8%と少数（両者が一致する位置に引いたグレーの帯の下側はほぼ空白）です。到達目標を達成することさえできれば、高い確率で「授業で得たものは今後の学習活動や人生に活きる」と感じさせられると言えそうです。授業で学んだことを用いて「学生が関心を持つ課題」（学問的興味／希望進路との関りなど）の解決を図る場が整えば、有用性の評価はさらに高まるかもしれません。一方、下右図でグレーの帯の上側は空白に近く、「有用性が認識できないことを好きになるのは困難」ということのようにです。



科目の学習内容を「自分事として認識できる課題」と結びつける機会の付与が不可欠と考えます。

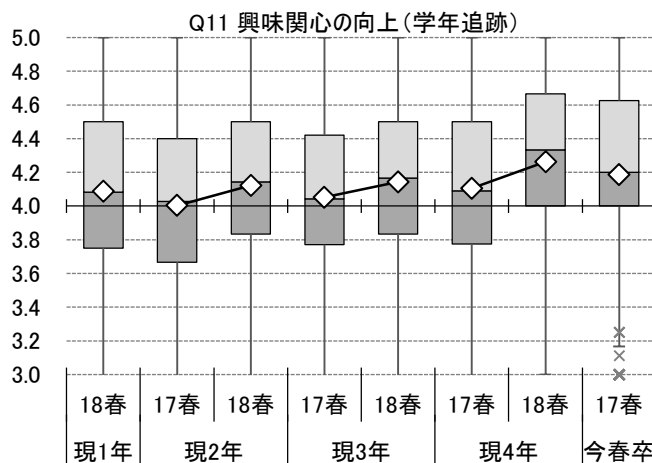


## Q11 私は、この授業を受けてこの科目や関連分野が好きになった

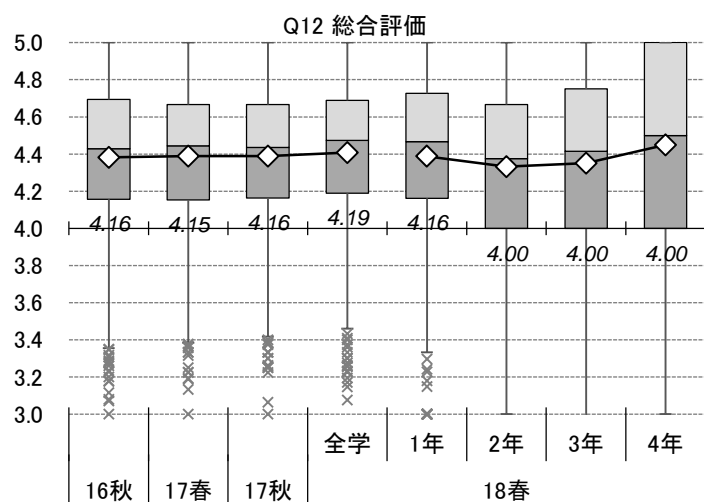


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.541	-.017
Q2 教員努力	.563	-.016
Q3 教員シラバス対応	.501	-.013
Q4 課題、準備・復習指示	.473	-.023
Q5 教員質問相談対応	.529	-.007
Q6 教材・教具効果	.609	.075
Q7 授業に臨む姿勢	.614	.004
Q8 質問・調査努力	.583	.097
Q9 目標達成	.658	.194
Q10 有用性	.729	.209
Q11 興味関心の向上		
Q12 総合評価	.776	.412
Q13 出席率	.196	-.058
Q14 平均学習時間	.260	.051

4.0 ポイント未満の授業は昨年同時期の 35.7%から 31.6%まで 4 ポイントほど減少しました。引き続き改善が必要と思われますが、学年が進むごとに平均は上昇していますし、現 1 年、2 年、4 年はそれぞれ一つ上の学年の 1 年前を統計的に有意に上回っています。前述の通り、Q10 有用性との相関は強く、Q12 総合評価にも非常に強い影響を与えています。

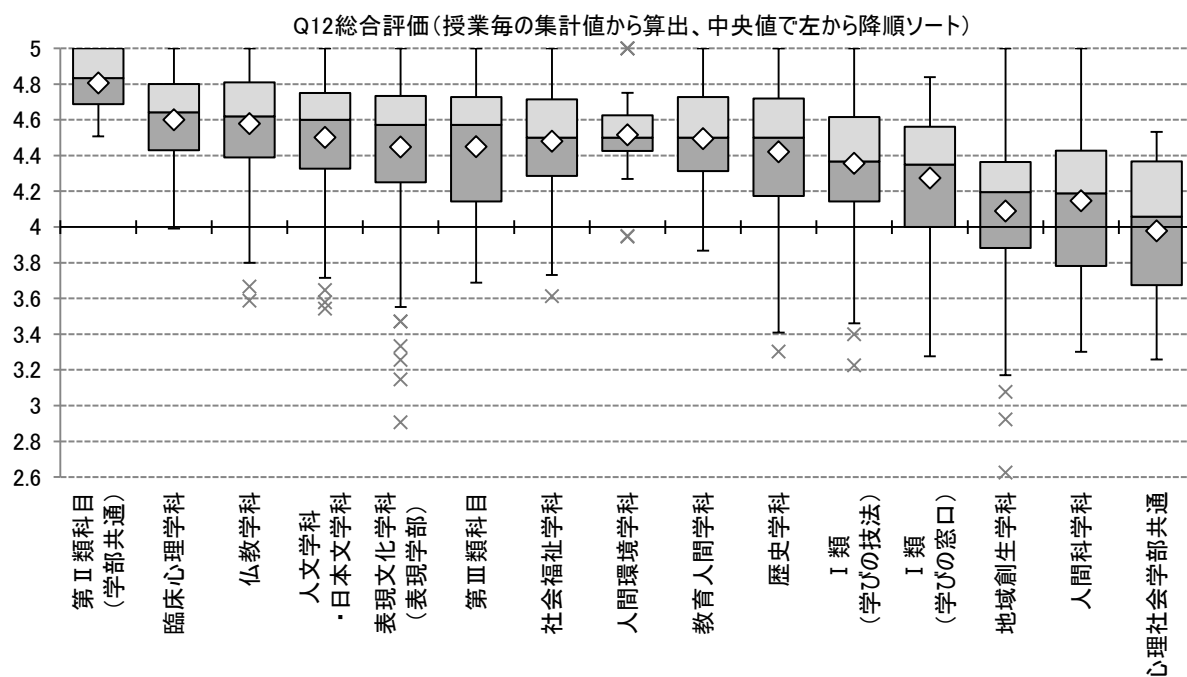


## Q12 全体として、この授業を受けてよかった

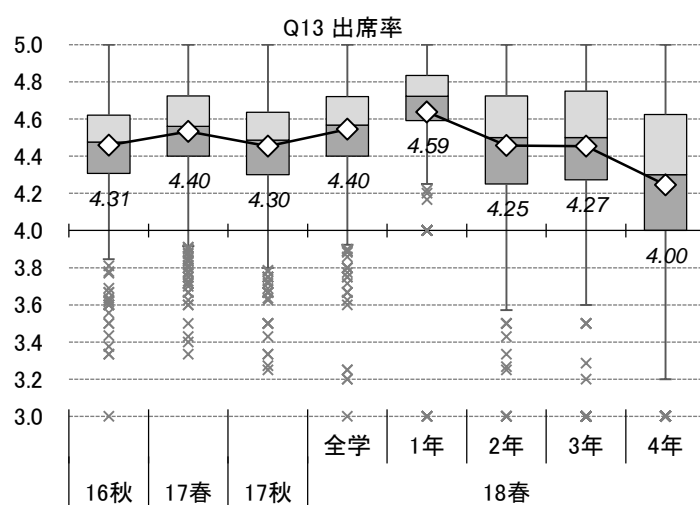


	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.628	.042
Q2 教員努力	.660	.087
Q3 教員シラバス対応	.579	.004
Q4 課題、準備・復習指示	.520	-.027
Q5 教員質問相談対応	.615	.071
Q6 教材・教具効果	.682	.130
Q7 授業に臨む姿勢	.640	.082
Q8 質問・調査努力	.539	-.044
Q9 目標達成	.612	-.011
Q10 有用性	.769	.311
Q11 興味関心の向上	.776	.412
Q12 総合評価		
Q13 出席率	.249	.065
Q14 平均学習時間	.224	.001

改善が重ねられてきましたが、4.0 ポイント未満の授業がまだ 13.7%を占めています。Q12 総合満足度を大きく左右するのは、Q11 興味関心の向上、Q10 有用性であることは以前と変わりません。

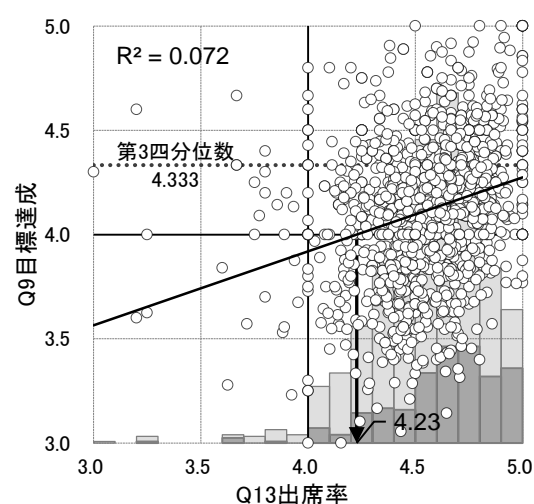


### Q13 あなたのこの授業の出席率はどれくらいでしたか



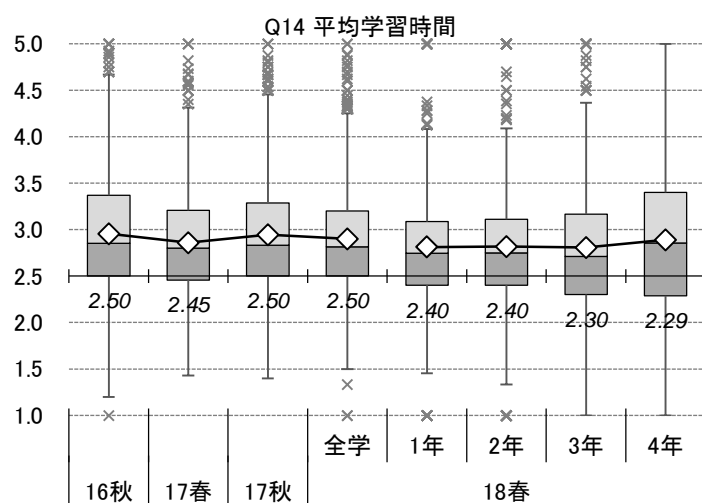
	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.194	-.010
Q2 教員努力	.208	.000
Q3 教員シラバス対応	.200	.030
Q4 課題・準備・復習指示	.147	-.048
Q5 教員質問相談対応	.205	.037
Q6 教材・教具効果	.192	-.037
Q7 授業に臨む姿勢	.307	.151
Q8 質問・調査努力	.213	-.012
Q9 目標達成	.247	.044
Q10 有用性	.242	.032
Q11 興味関心の向上	.196	-.058
Q12 総合評価	.249	.065
Q13 出席率		
Q14 平均学習時間	.088	.013

出席率は昨年同時期とほぼ同じ水準です。すでに高止まりに近いところまで来ているように思われます。4年生は就職活動もあり、出席率が多少下がるのはやむを得ないところですが、2年生、3年生でも出席率75%に相当する4.0ポイントを下回る授業が散見されます。相関行列を見ると、Q7 授業に臨む姿勢を除くと他項目との強い相関はなさそうですが、Q9 目標達成の上位群では4.5ポイント以上の評価を得ている授業が多くなっています。





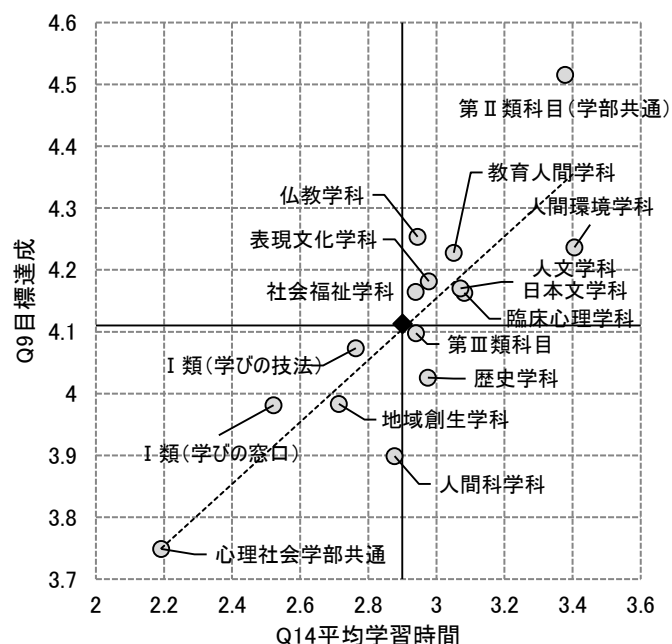
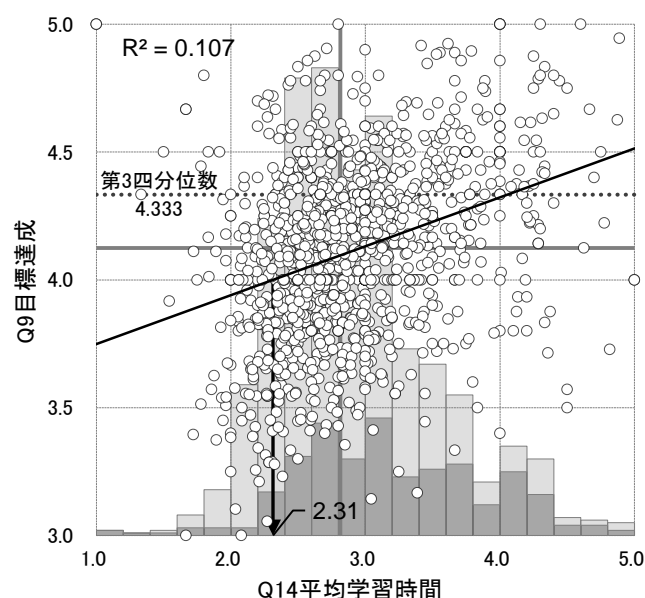
# Q14 この授業のための課題、準備・復習に何時間取り組みましたか



	単相関	偏相関
Q1 教員目標明示	.191	.008
Q2 教員努力	.179	-.029
Q3 教員シラバス対応	.159	-.033
Q4 課題、準備・復習指示	.290	.169
Q5 教員質問相談対応	.166	-.051
Q6 教材・教具効果	.178	-.041
Q7 授業に臨む姿勢	.268	.021
Q8 質問・調査努力	.343	.150
Q9 目標達成	.283	.027
Q10 有用性	.242	.014
Q11 興味関心の向上	.260	.051
Q12 総合評価	.224	.001
Q13 出席率	.088	.013
Q14 平均学習時間		

前回までの結果とほぼ同じ水準です。箱の下端は、授業1回あたり30分程度（「31分以上60分未満」と「1分以上30分未満」の境界）に相当する2.5前後で推移しています。右の散布図（それぞれの中央値で座表面を分割しました）で第二象限に位置する場合は、到達目標をもう少し高く設定するのが好適かと存じます。一方、近似線から下方に大きく離れた授業では、到達目標が高すぎる可能性も否定できませんが、目標を引き下げるという判断を下す前に、他の項目（特にQ1～Q6の「教員による授業への取り組み」）に改善の余地がないか探ってみることが先決です。

科目区分ごとにQ14平均学習時間とQ9目標達成と関係を調べてみた右図（縦横の軸は全授業の平均）では、ほとんどの科目区分が近似線からそれほど遠くないところに位置しています。第Ⅱ類科目（学部共通）は学習時間も多く、且つ目標達成も高い位置にあります。人間科学科、歴史学科、人間環境学科は、平均学習時間の割に目標達成が低めであり、目標達成を妨げている要素の特定を急ぐ必要がありそうです。





参考資料 1

実施率／回収率

参考資料1-1. アンケート実施率(回収率)科目区分別

■学部1183科目

科目区分	授業数	実施数	実施率	
02 I 類(学びの窓口)	302	53	53	100.0%
10 臨床心理学科	310	51	51	100.0%
11 人間科学科	311	48	48	100.0%
12 心理社会学部共通	312	5	5	100.0%
15 教育人間学科	313	56	56	100.0%
15 歴史学科	315	112	112	100.0%
19 第Ⅱ類科目(学部共通)	319	5	5	100.0%
03 I 類(学びの技法)	303	247	245	99.2%
18 地域創生学科	318	98	97	99.0%
08 社会福祉学科	308	75	73	97.3%
14 人文学科・日本文学科	314	87	84	96.6%
07 仏教学科	307	143	138	96.5%
20 第Ⅲ類科目	320	56	53	94.6%
17 表現文化学科(表現学部)	317	146	138	94.5%
09 人間環境学科	309	27	25	92.6%
計	1209	1183	97.8%	

■大学院85科目

科目区分	授業数	実施数	実施率	
02 院史学専攻(修士・博士)	302	13	13	100.0%
03 院国文学専攻(修士・博士)	303	4	4	100.0%
04 院臨床心理学専攻(修士)	304	18	18	100.0%
05 院社会福祉学専攻(修士)	305	3	3	100.0%
06 院人間科学専攻(修士)	306	5	5	100.0%
07 院比較文化専攻(修士・博士)	307	4	4	100.0%
08 院宗教学専攻(修士・博士)	308	6	6	100.0%
09 院福祉・臨床専攻(修士)	309	1	1	100.0%
01 院仏教学専攻(修士・博士)	301	32	31	96.9%
計	86	85	98.8%	

参考資料1-2. アンケート実施率(学部) 2005年度春学期～2018年度春学期

年度	学期	回収率	回収数	開講講座数
2005年度	春学期	86.0%	773	899
2005年度	秋学期	83.9%	705	840
2006年度	春学期	70.2%	817	1163
2006年度	秋学期	83.3%	749	899
2007年度	春学期	92.1%	793	861
2007年度	秋学期	89.1%	725	814
2008年度	春学期	92.7%	789	851
2008年度	秋学期	87.3%	714	818
2009年度	春学期	90.9%	777	855
2009年度	秋学期	87.4%	706	808
2010年度	春学期	91.9%	839	913
2010年度	秋学期	92.9%	793	854
2011年度	春学期	92.8%	852	918
2011年度	秋学期	91.8%	812	885
2012年度	春学期	89.6%	844	942
2012年度	秋学期	81.9%	799	975
2013年度	春学期	94.4%	913	967
2013年度	秋学期	92.9%	848	913
2014年度	春学期	96.3%	1009	1048
2014年度	秋学期	94.3%	985	1045
2015年度	春学期	96.3%	1049	1089
2015年度	秋学期	92.4%	1040	1125
2016年度	春学期	96.3%	1123	1166
2016年度	秋学期	95.3%	1072	1125
2017年度	春学期	96.3%	1172	1217
2017年度	秋学期	92.6%	1096	1183

<b>2018年度</b>	<b>春学期</b>	<b>97.8%</b>	<b>1183</b>	<b>1209</b>
---------------	------------	--------------	-------------	-------------



## 参考資料 2

### 自由記述回答

### 頻出キーワード分析

## 概要

本参考資料は授業アンケートの最後に「授業運営のために意見があれば具体的にお書きください。」として用意された自由記述欄に記載のあった回答につきデータ化をした上で、頻出する単語を調査・分析し、同種の意見の集約・集計を行ったものです。

## 目的

頻出する意見を明らかにすることにより大学全体の傾向をつかみ、全学として優先的に取り組むべき課題を明らかにすることを目的としています。

この為、キーワード※1として出現頻度の上位 10 ワードを特に重要なものとして集計対象とし、11 位以下のキーワードについては参考として表示しています。また、前回比較グラフは出現率※2による前回と前々回（＝前年同期）データに加え、今回の全学平均を表示しています。改善項目と悪化項目を明らかにすることで、とったアクションの効果を確認し、全学平均との比較により重点改善課題を抽出することにお役立て下さい。

## 課題の抽出

前回同様、集計グラフ内の肯定的内容のキーワードの頭に●を付しました。同じキーワードでも●付き（肯定的）と●なし（否定的）が存在する場合があります。

頻出キーワードの【全体】集計では「楽しい・面白い」、「分かりやすい」が引き続きの上位 1 位、2 位をキープしました。特に「楽しい・面白い」の出現率は今回を含めて直近 3 回の内、最高を記録しました。キーワード「楽しい・面白い」は従来同様「興味深い内容だった」「好きな授業」「充実した授業」などの意見も含んでいます。それぞれの言葉の使い方が学生により異なり言葉の定義として一貫しないことから、項目としては分けず積極的な肯定的意見としてまとめることが適当であるとの判断によります。

3 位は「分かりづらい」ですが、出現率は昨年同時期（2017 年度春学期）よりは改善したものの、前回（2017 年度秋学期）の 2 倍程度に増大してしまいました。前回の大きな改善達成の理由がどこにあったのかを改めて見直すことが、次回秋学期に向けての改善計画に有効かもしれません。

前回 9 位だった 4 位「聞きにくい」は、過去 2 回と比較しても出現率が最も大きくなりました。個々の回答内容見ると、マイクを通しての声聞きづらかったり、逆に音量が大きすぎるなどの問題も指摘されています。早急な対策が期待されます。

5 位「レポート・課題」から 15 位「時間」まではロングテール状に長く伸びており、大きく改善をみた前回（2017 年度秋学期）の前、2017 年度春学期に近い状態に戻った感がありますが、その中で「はやい」は前回の改善レベルをキープしました。肯定的キーワードの「●丁寧」も、前回、前々回のレベルをキープしています。

そうした中でキーワードとして初めて出現した「●体験」が 8 位に入りました。個々の回答から仏教の授業に関する「体験」のようです。1 年生に対する体験型授業が強烈な印象として残ったことを伺わせます。

## 少数意見

出現頻度の少ないキーワードは個々の授業の特殊性や、教員あるいは学生個別の理由によるものが少なくありません。従って、こうしたキーワードについてはむしろ、それぞれの教員においてその全文を自ら確認し、授業改善のために利用されることが重要であり、本資料における集計・分析の対象からは除外しています。

### ※1 キーワードと集計内容について

同一のキーワードを含む回答でも肯定的な意見と否定的な意見は項目として分けて集計をしています。

例えば「板書」というキーワードの内容は「板書が分かりにくい／板書をしてほしい・・・」など否定的なものあるいは要望等を集計しており、肯定的なものは含んでいません。

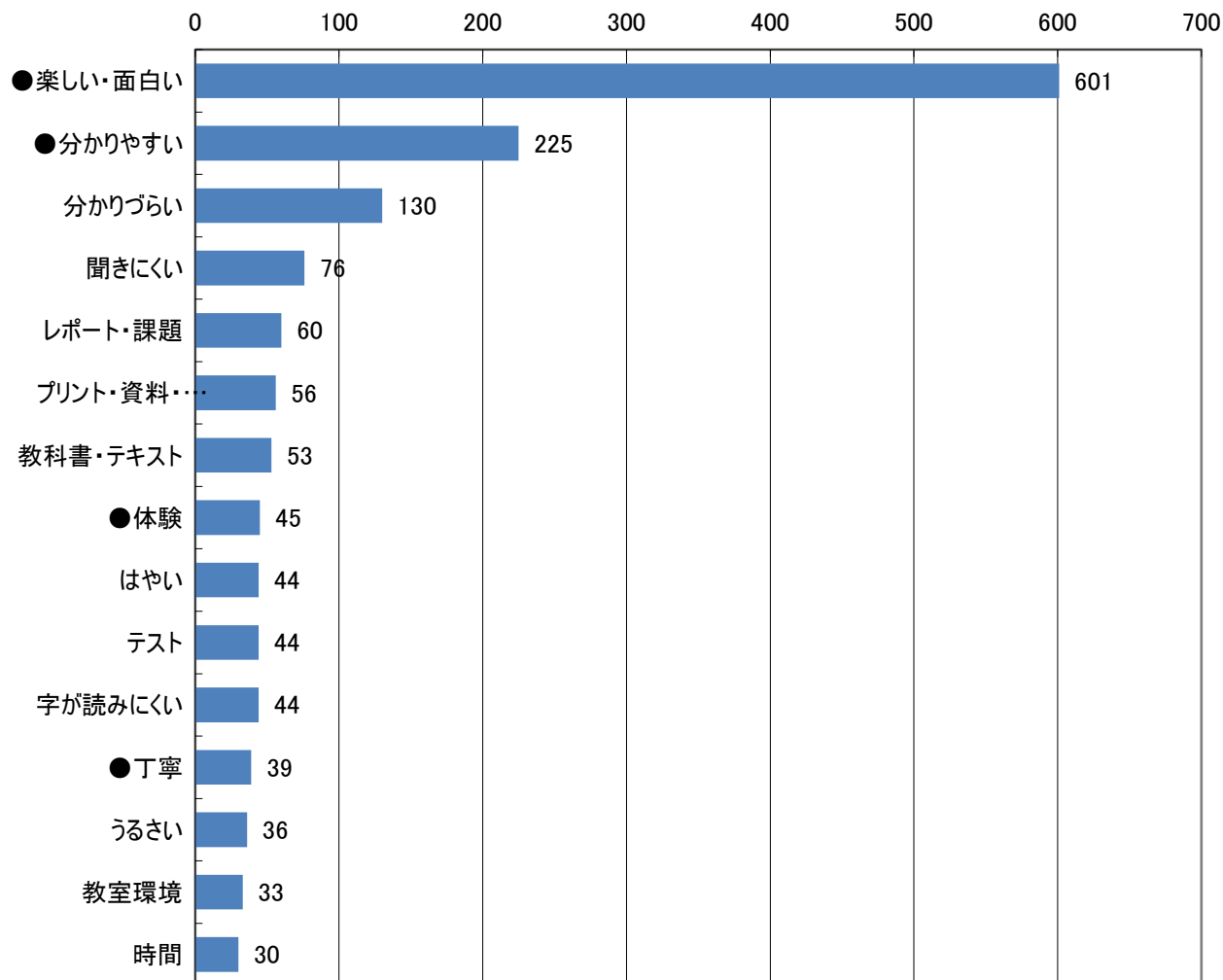
また、キーワードはあくまでその内容を代表する言葉を当てはめたものです。例えば「聞きにくい」は、回答中に「聞きにくい」という単語がなくても「声が小さい」という単語があれば、「聞こえない」と同義と判断しこのキーワードとしてカウントしています。

### ※2 出現率について

「出現率前回比較 全学」下段の説明を参照ください。

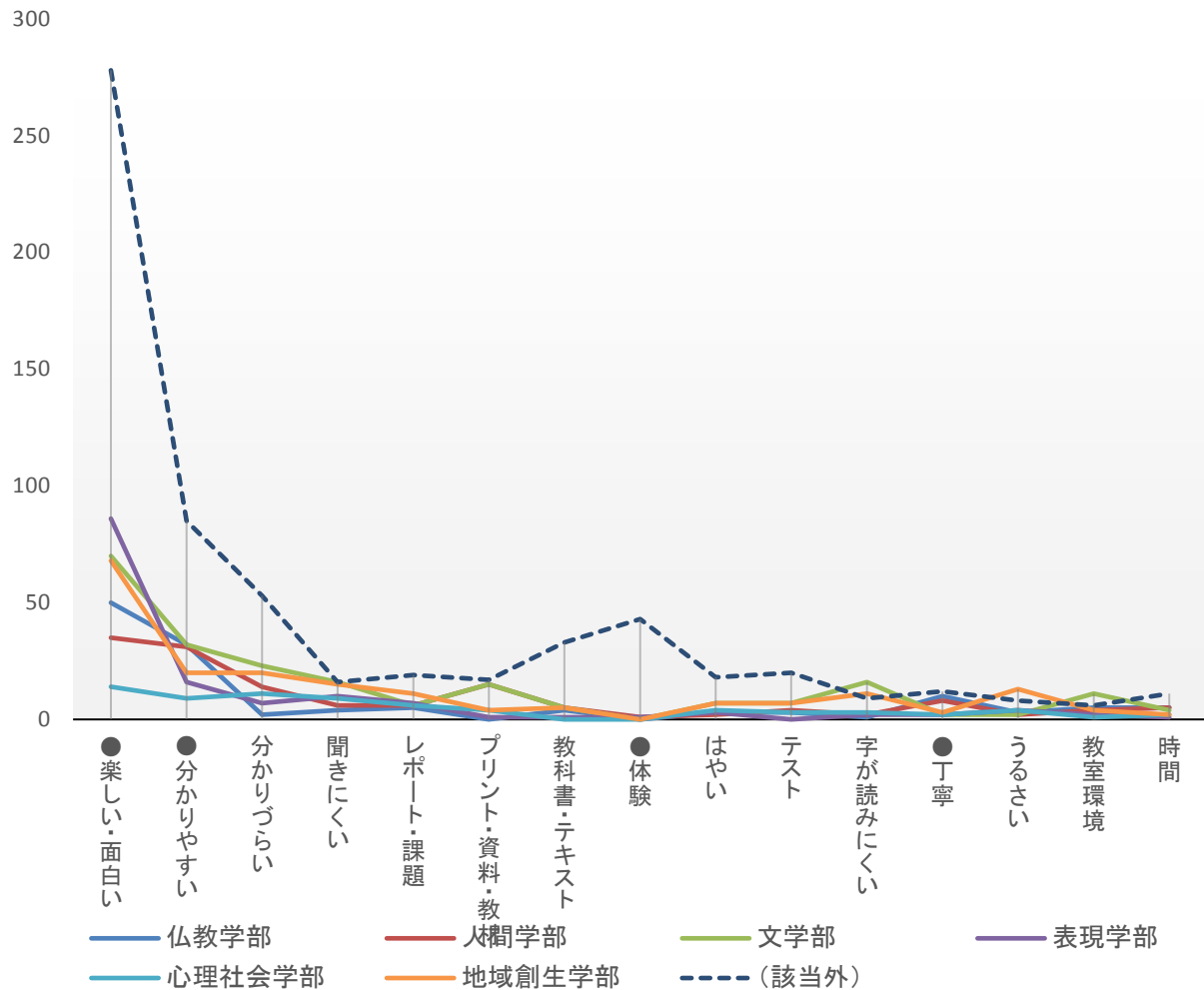


自由記述回答 頻出キーワード  
【全学】

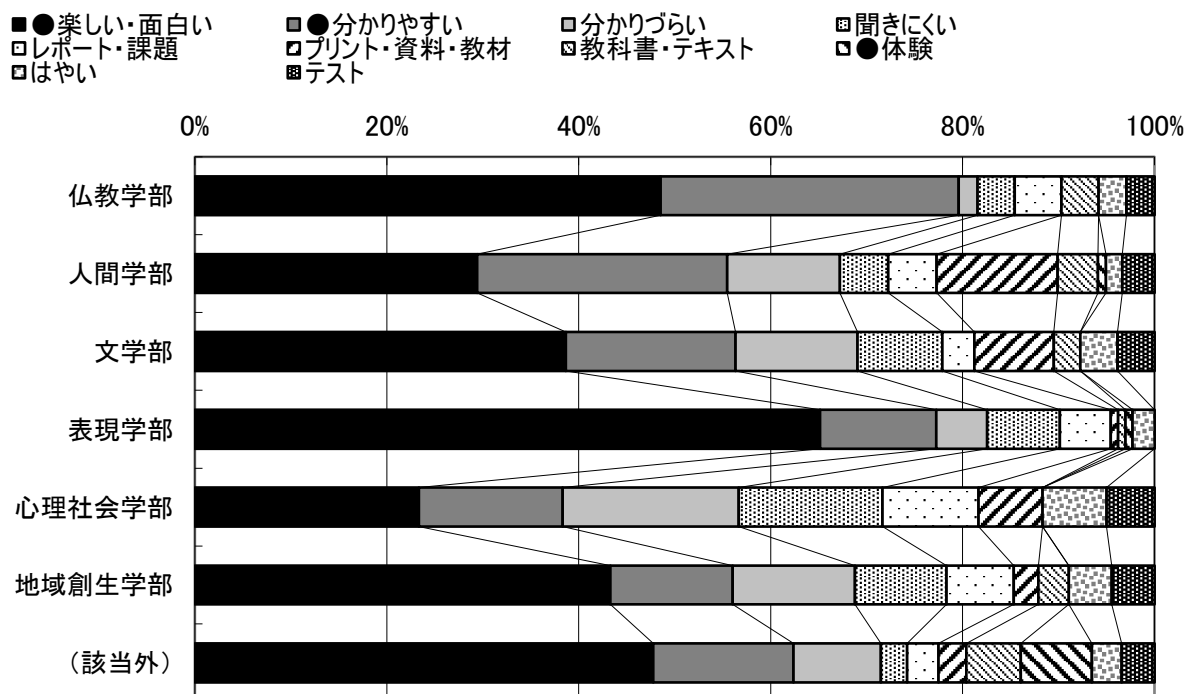


キーワード	主な内容	出現数
●楽しい・面白い	楽しかった／楽しい授業だった／面白かった	601
●分かりやすい	授業の仕方、説明、教え方、資料等が分かりやすかった 理解しやすかった	225
分かりづらい	分かりづらかった／説明・資料等が分かりにくい	130
聞きにくい	声が小さく聞こえない／聞き取りづらい／マイクを使ってほしい／マイクの音が聞こえない、聞きづらい	76
レポート・課題	レポート、課題の出し方を改善してほしい／評価のしかたについて	60
プリント・資料・教材	プリントが分かりにくい／プリントを配布してほしい／プリントの使い方について	56
教科書・テキスト	教科書がわかりにくい／教科書の使い方について	53
●体験	実際の体験ができて良かった	45
はやい	進行がはやくついていけない／パワーポイント、スライドの画面替えが早すぎる	44
テスト	テストの実施方法、範囲／テスト時間が短い	44
字が読みにくい	黒板・パワーポイント・スライド等の字が小さい・読みにくい／板書の字が汚く読めない／誤字脱字が多い	44
●丁寧	丁寧な授業／丁寧な添削／丁寧なコメント／丁寧な質問対応	39
うるさい	周囲がうるさい／私語が多い	36
教室環境	教室が狭い／教室が暑い（または寒い）／空調が良くない	33
時間	時間配分を改善してほしい／時間を守ってほしい	30
<以下番外>		
●プリント・資料・教材	「わかりやすい」「充実していた」等に限定。	29
説明・解説不足	説明が不十分なことがあった、解説不足で分かりにくいところがあった。	25
●質問	質問に親身に答えてくれた。質問しやすかった。質問の有無を確認しながら進めてくれた	24
難しい	難しすぎる	21

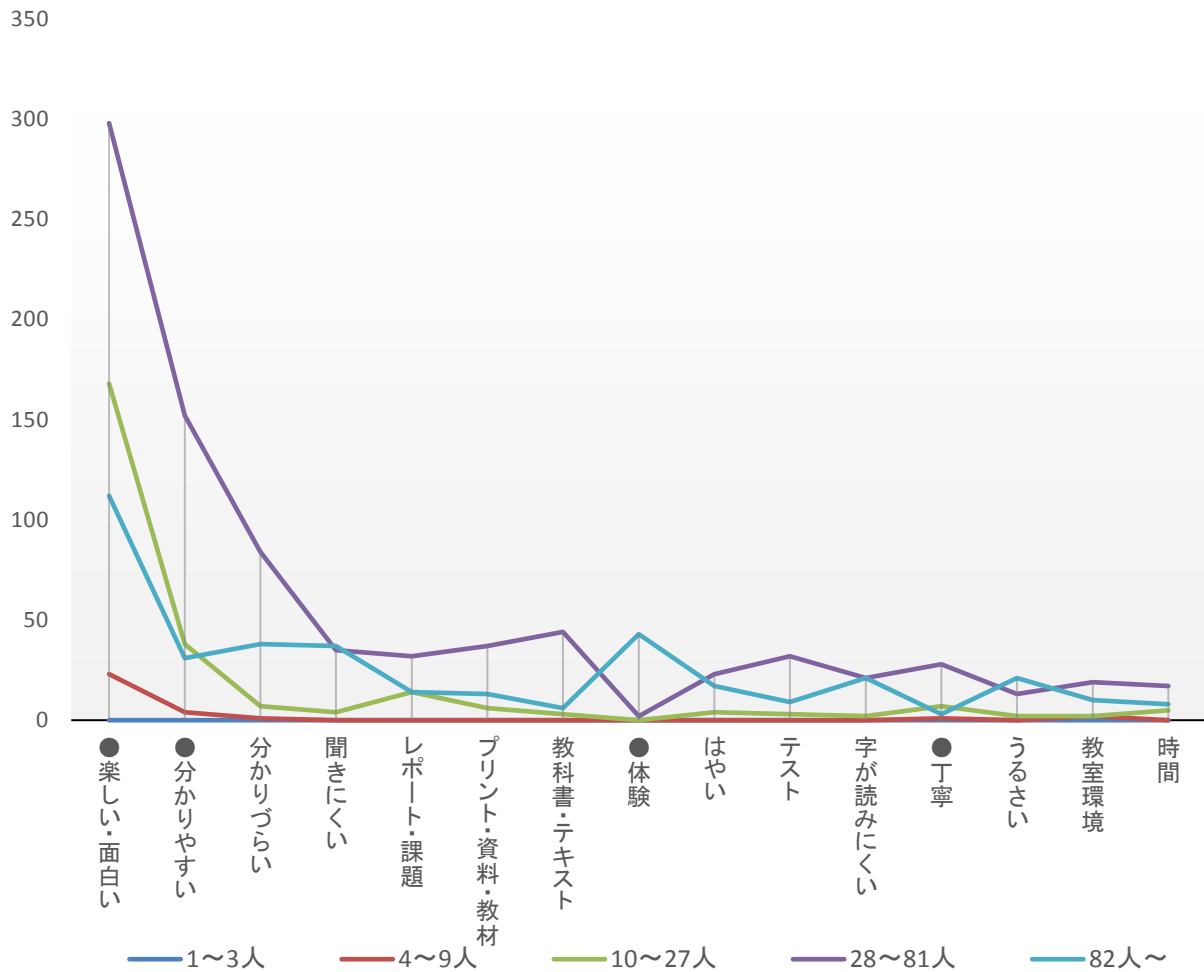
自由記述回答 頻出キーワード  
【学部別】



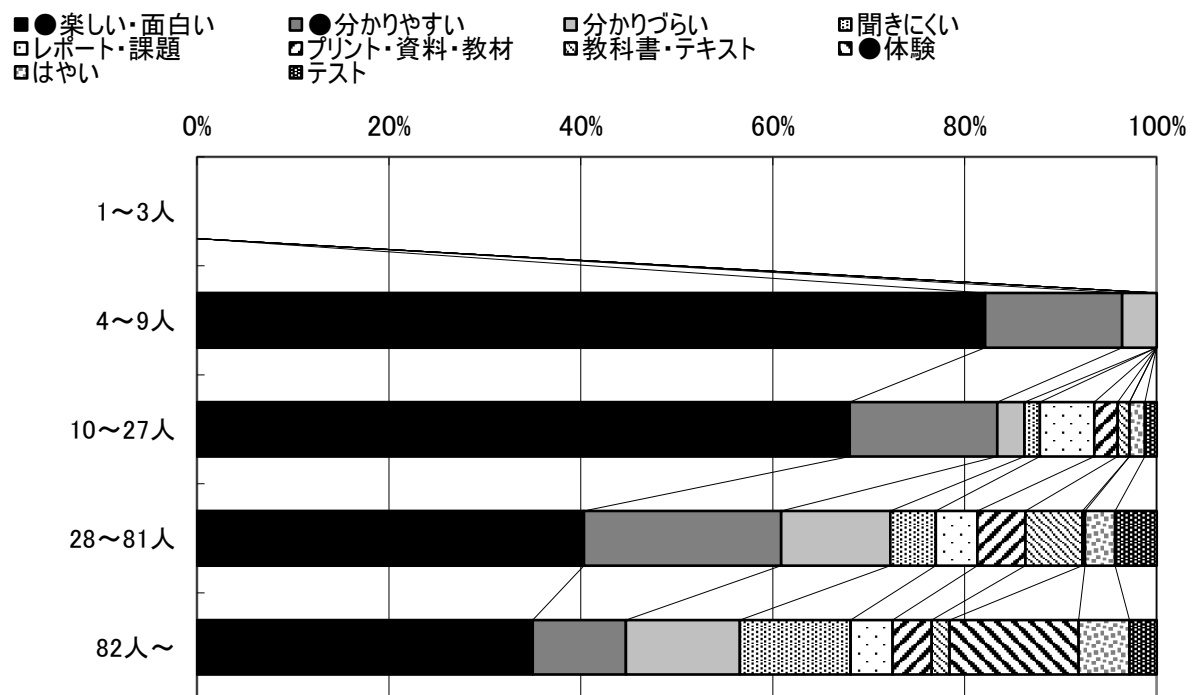
上位10項目の学部別割合



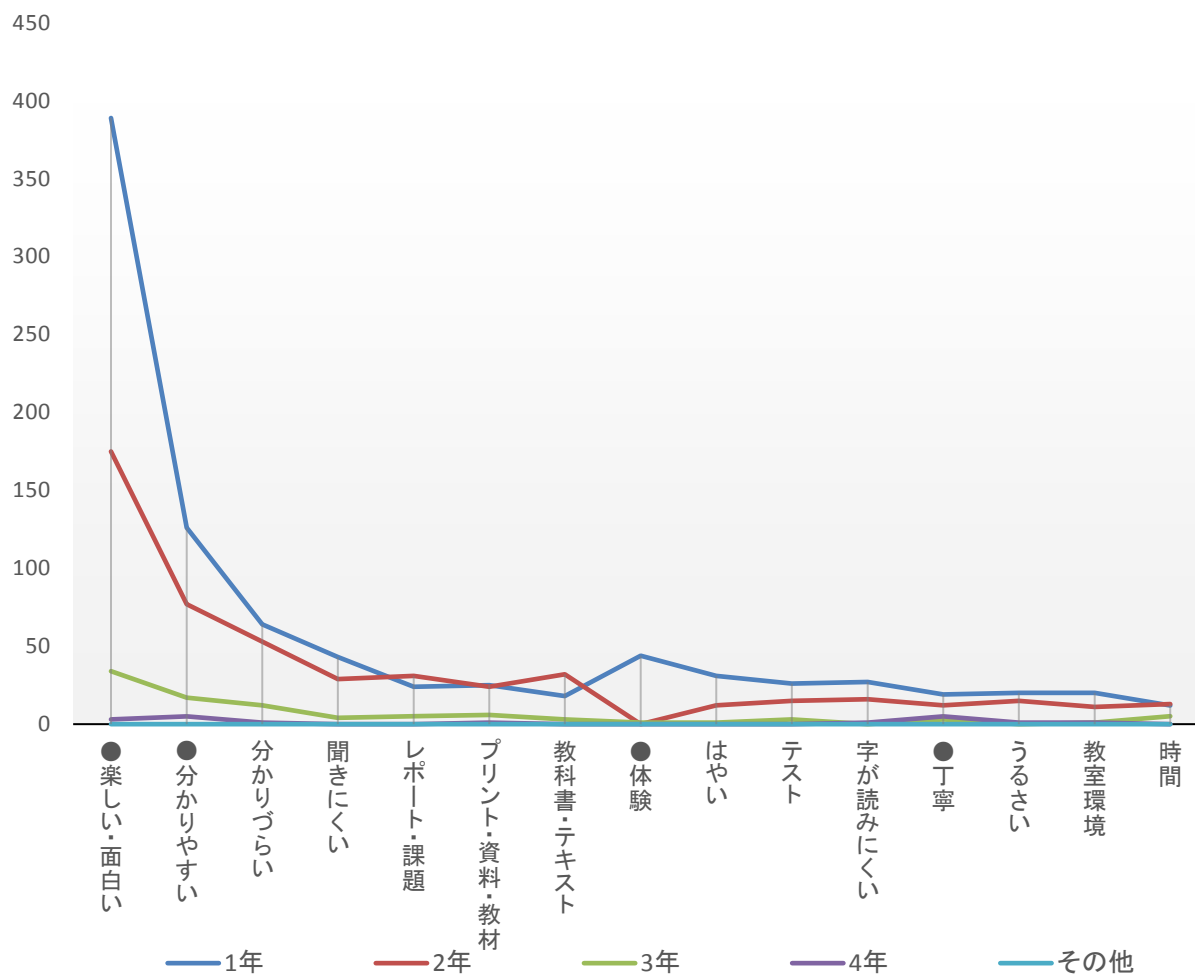
自由記述回答 頻出キーワード  
【回答人数帯別】



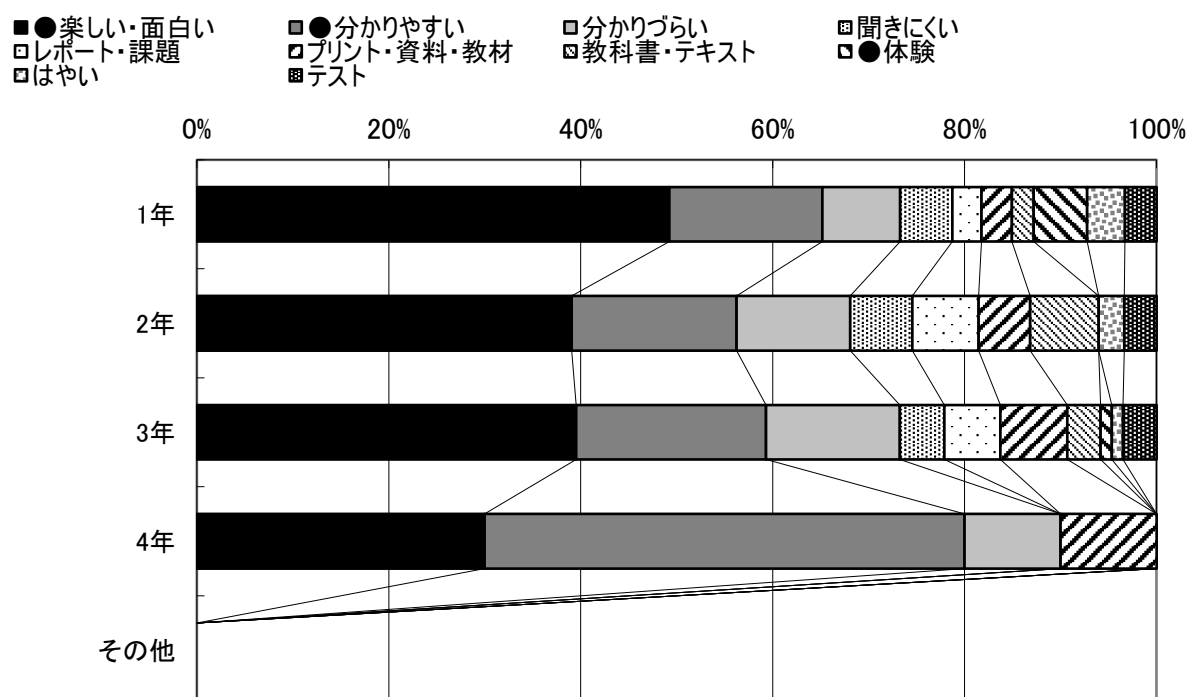
上位10項目の回答人数帯別割合



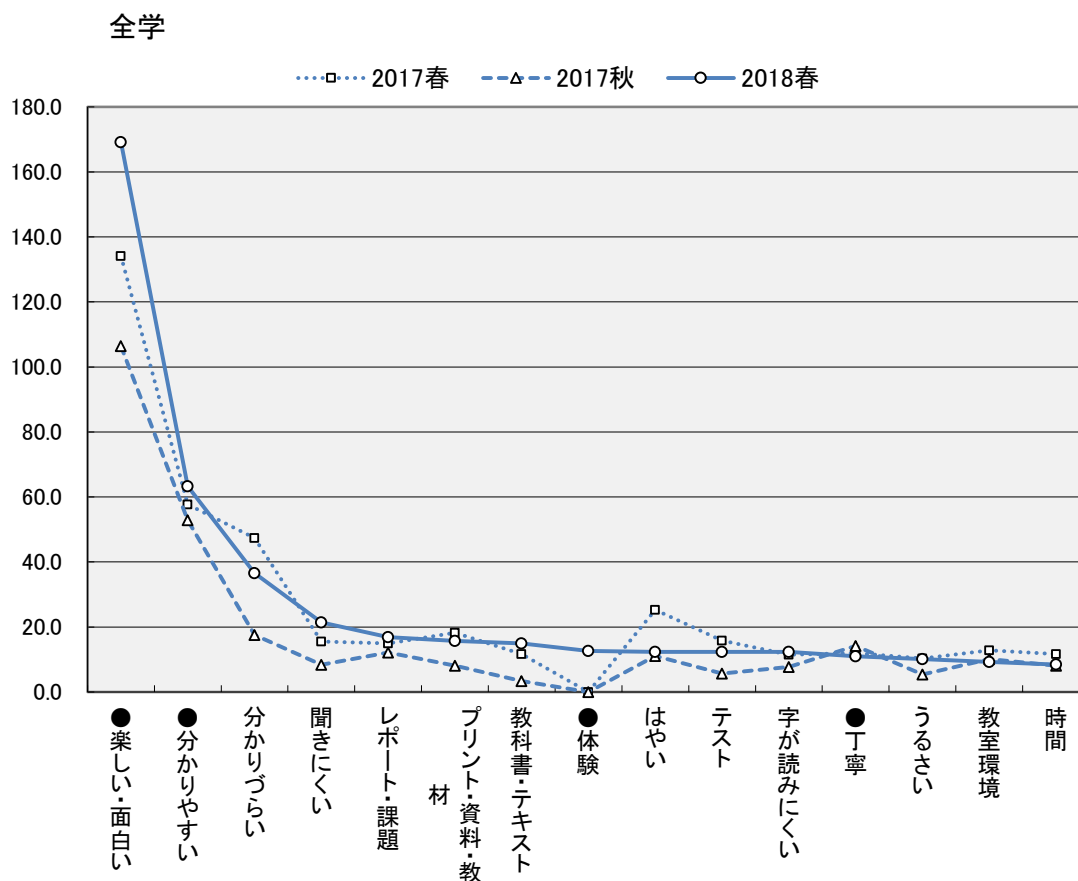
自由記述回答 頻出キーワード  
【学年別】



上位10項目の学年別割合



自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】全学

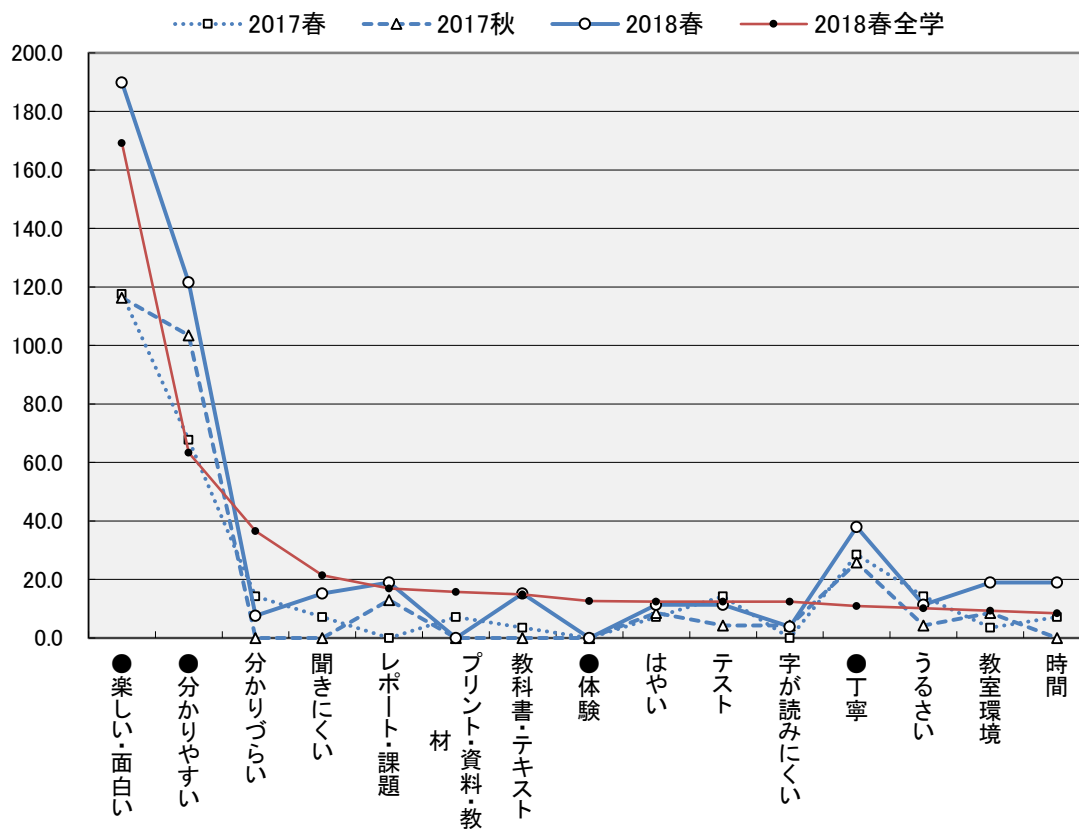


「出現率」について

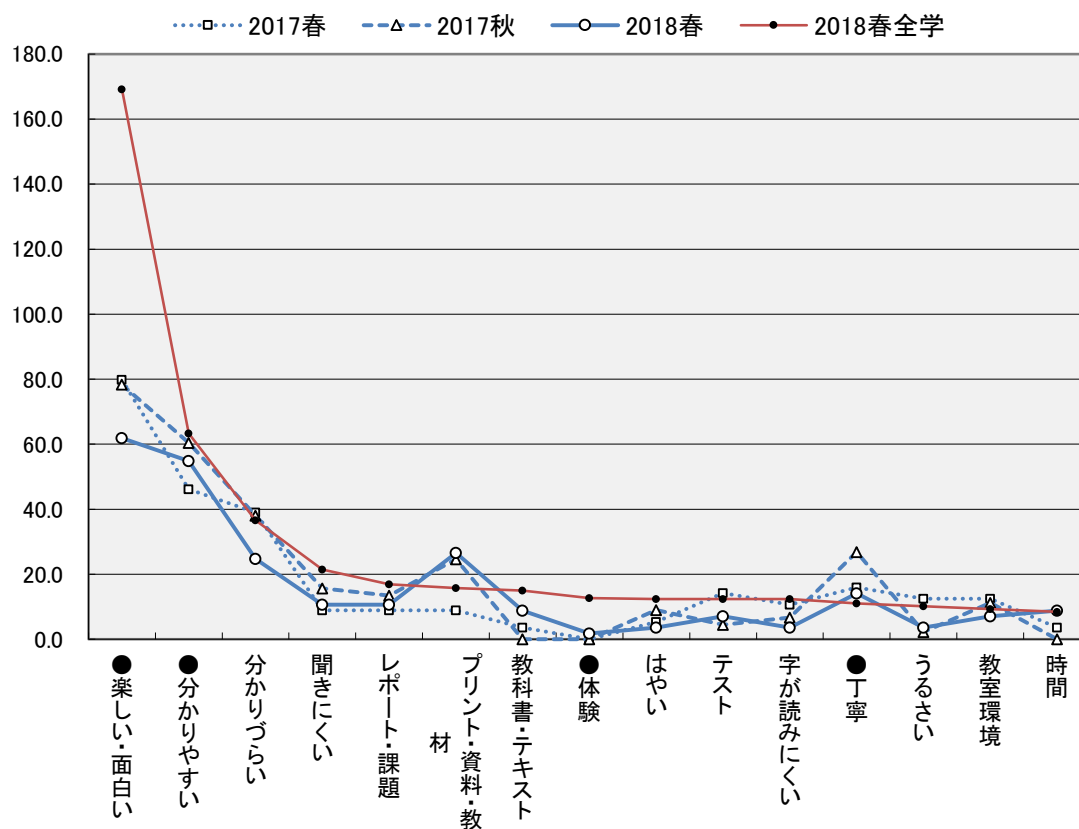
- 自由記述回答の頻出キーワードに関する前回比較では、出現回数ではなく出現率により比較を行っています。  
総回答数が春学期と秋学期では異なり、単純な出現数では比較ができないためです。  
出現率は下記の式で計算されます。  
$$\text{出現率} = \text{出現数} / \text{回答者数} \times 10^4$$
  
(回答者数: 授業アンケートの回答者数で自由記述回答の記載者数ではありません。)
- 次ページ以降の学部別、回答数区分別、学年別における出現率算出の為の回答者数は、それぞれのカテゴリーにおける回答者数を使用しています。
- 前回との比較において;  
肯定的回答では今回の出現率が上がっている項目は改善、下がっている項目は悪化です。  
否定的回答で今回の出現率が下がっている項目は改善、上がっている項目は悪化です。

自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】学部別

《仏教学部》

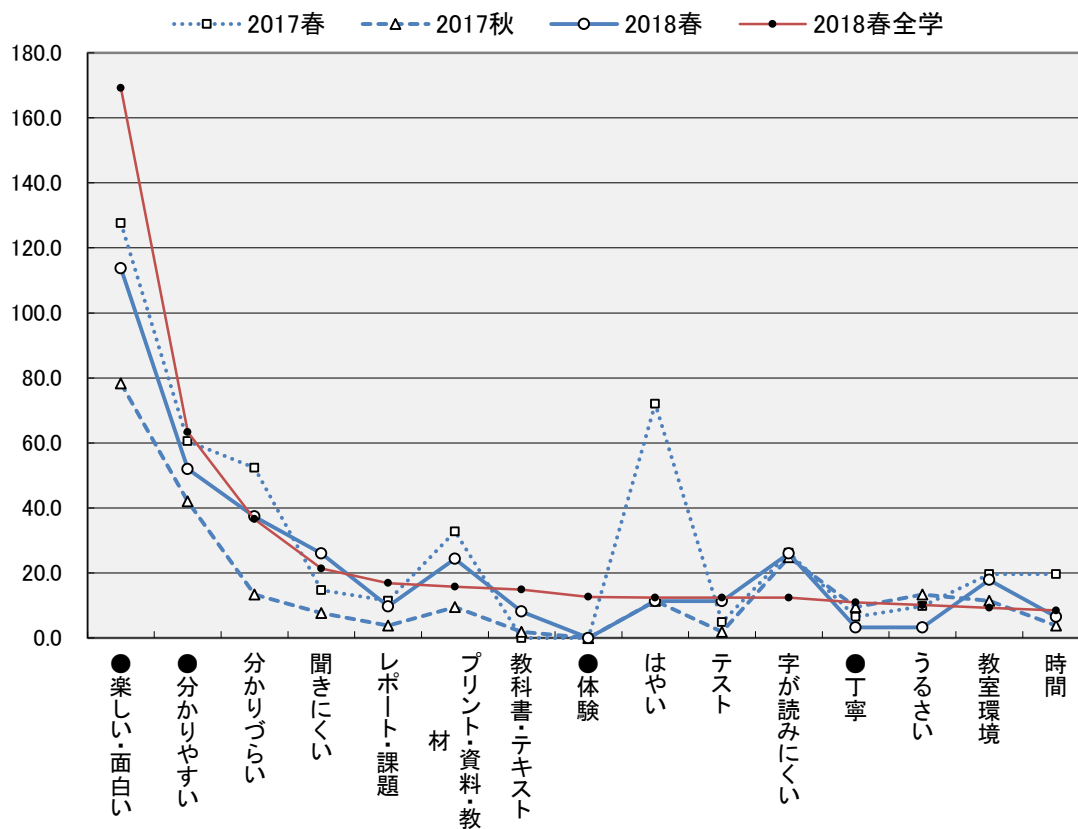


《人間学部》

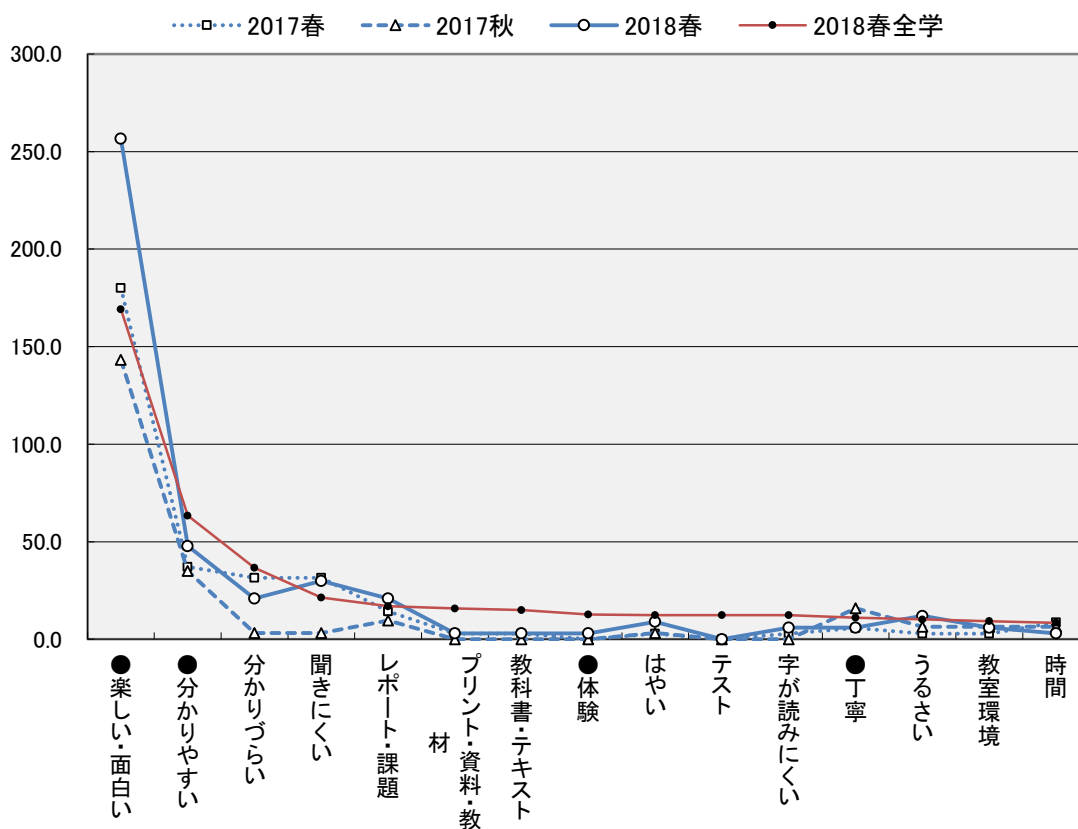


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】学部別

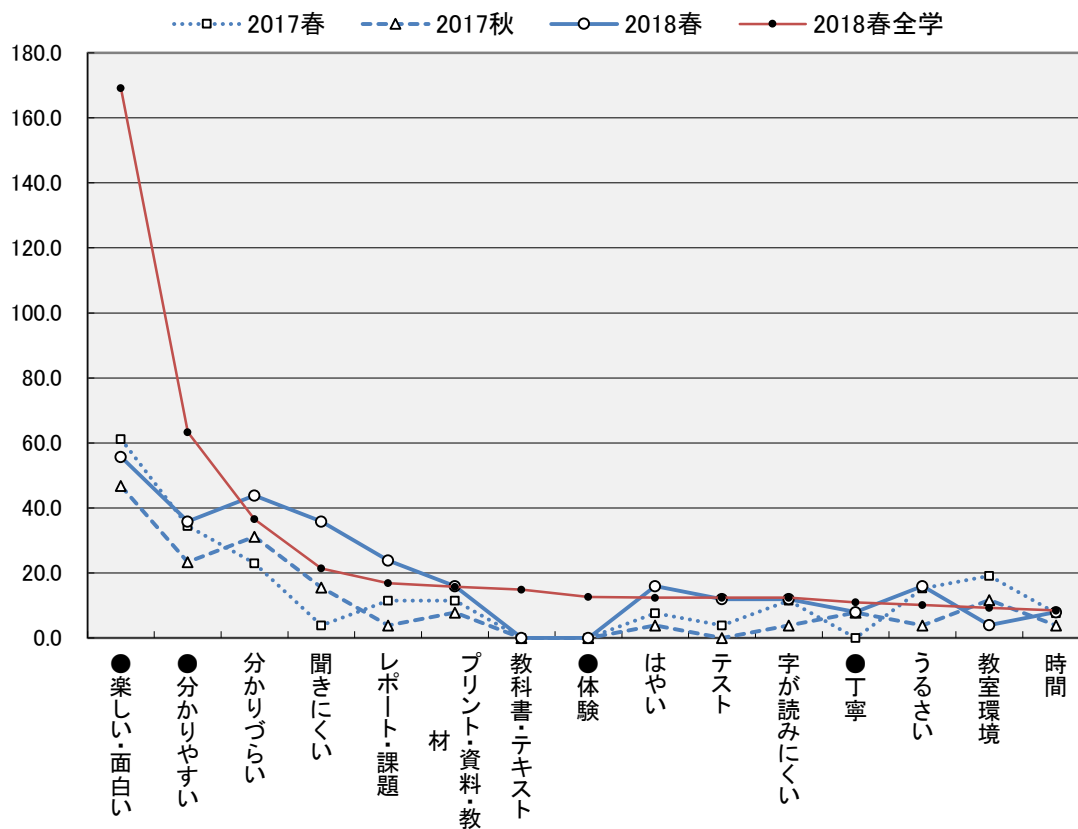
《文学部》



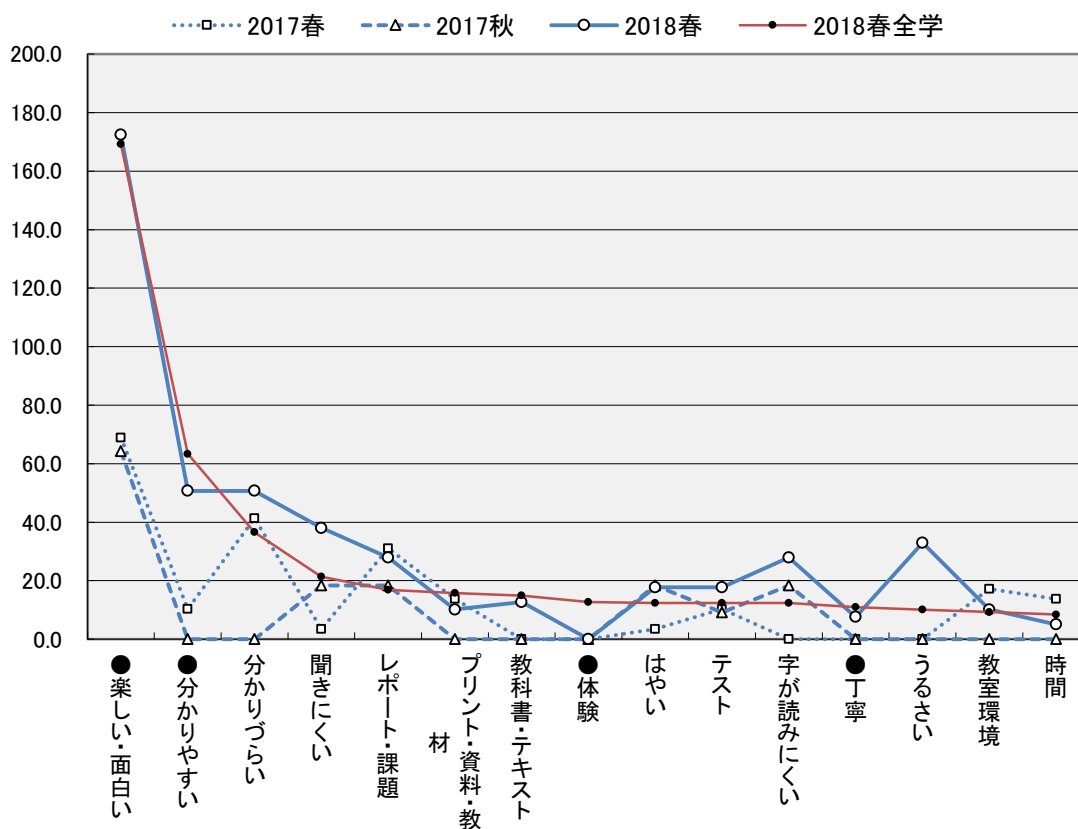
《表現学部》



《心理社会学部》

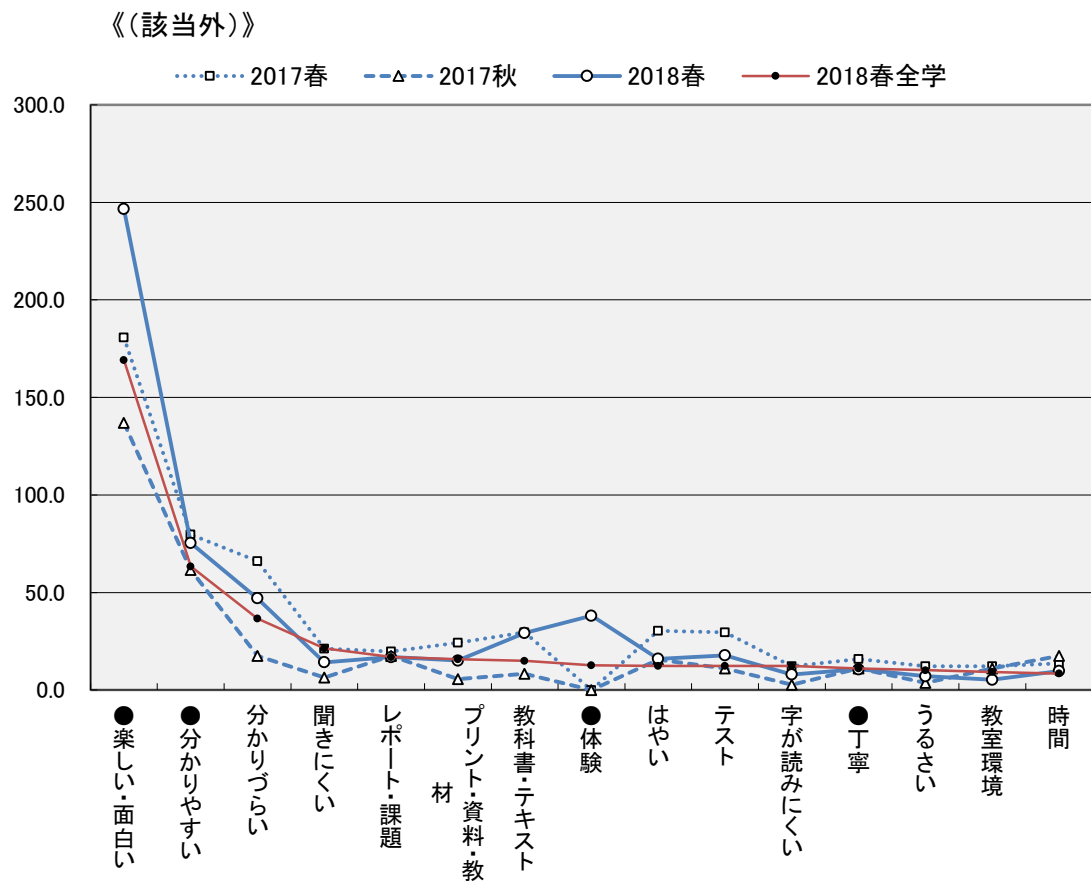


《地域創生学部》



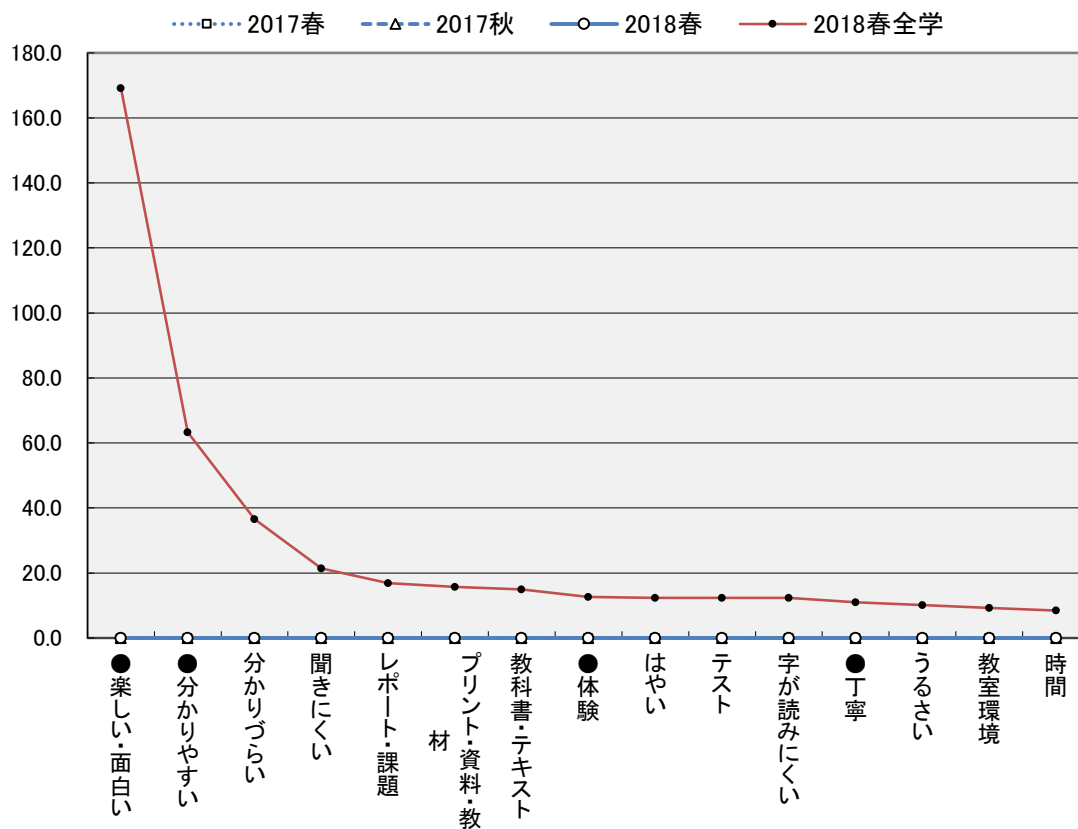


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】学部別

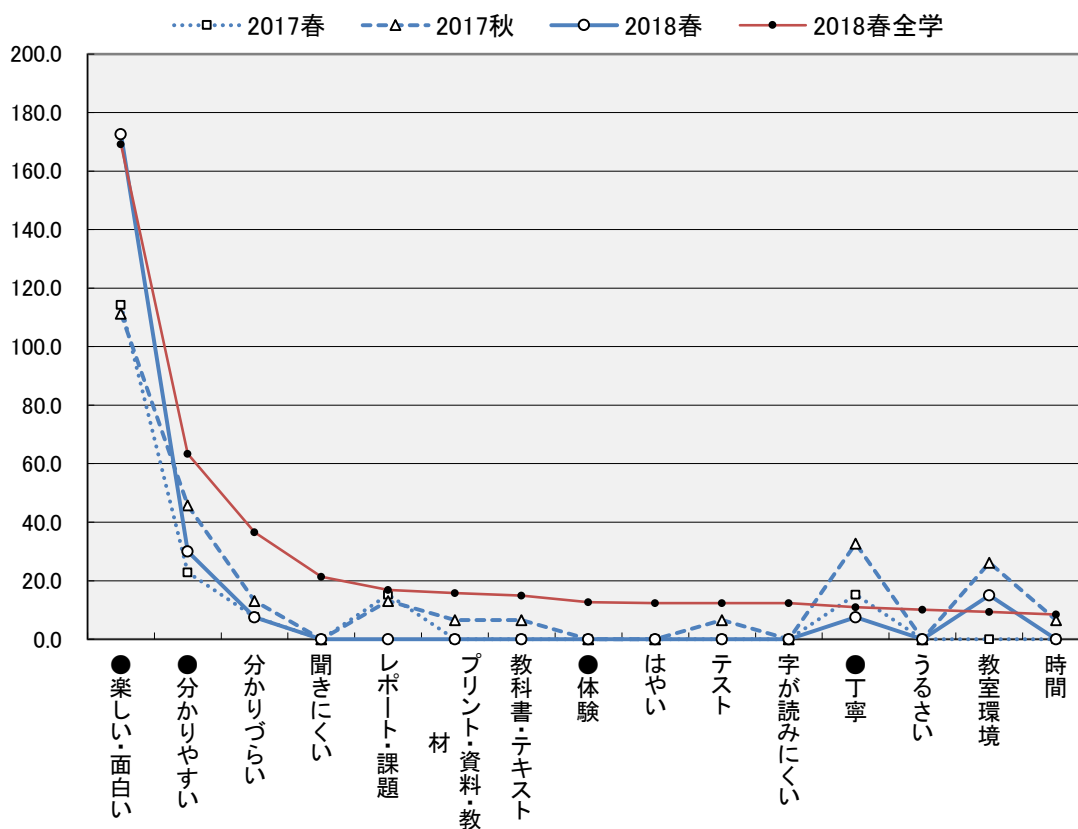


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】回答人数帯別

《1～3人》

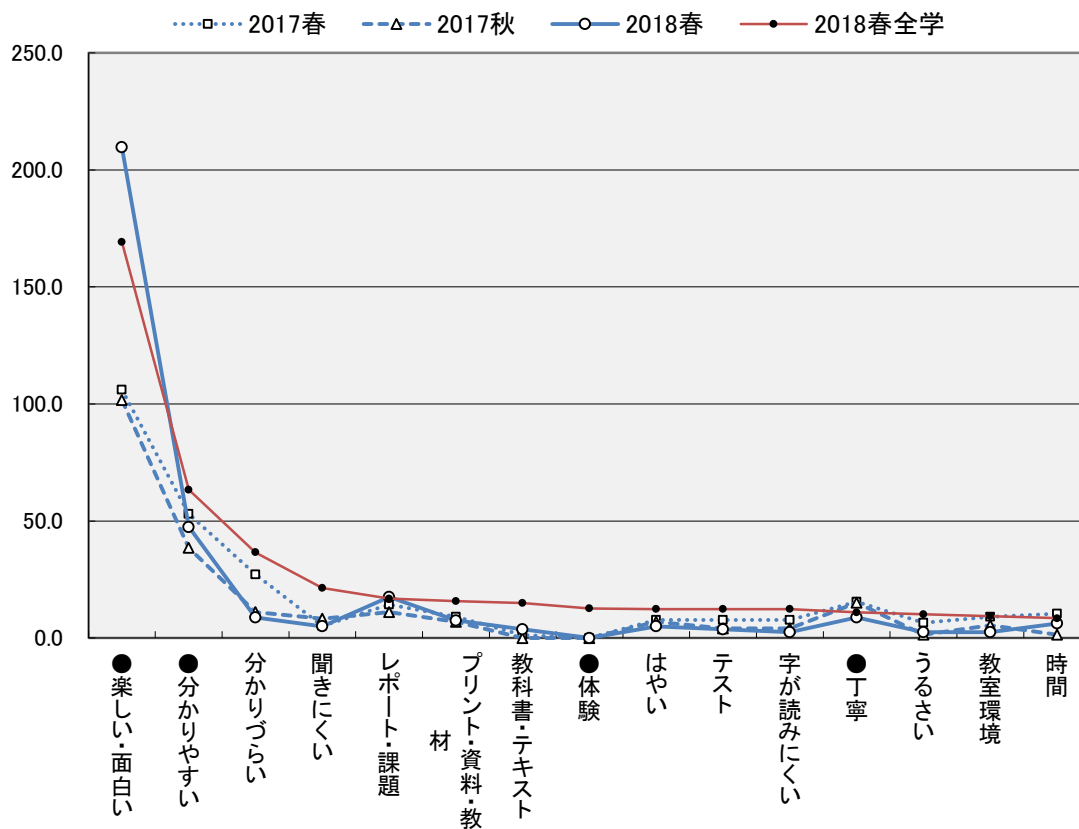


《4～9人》

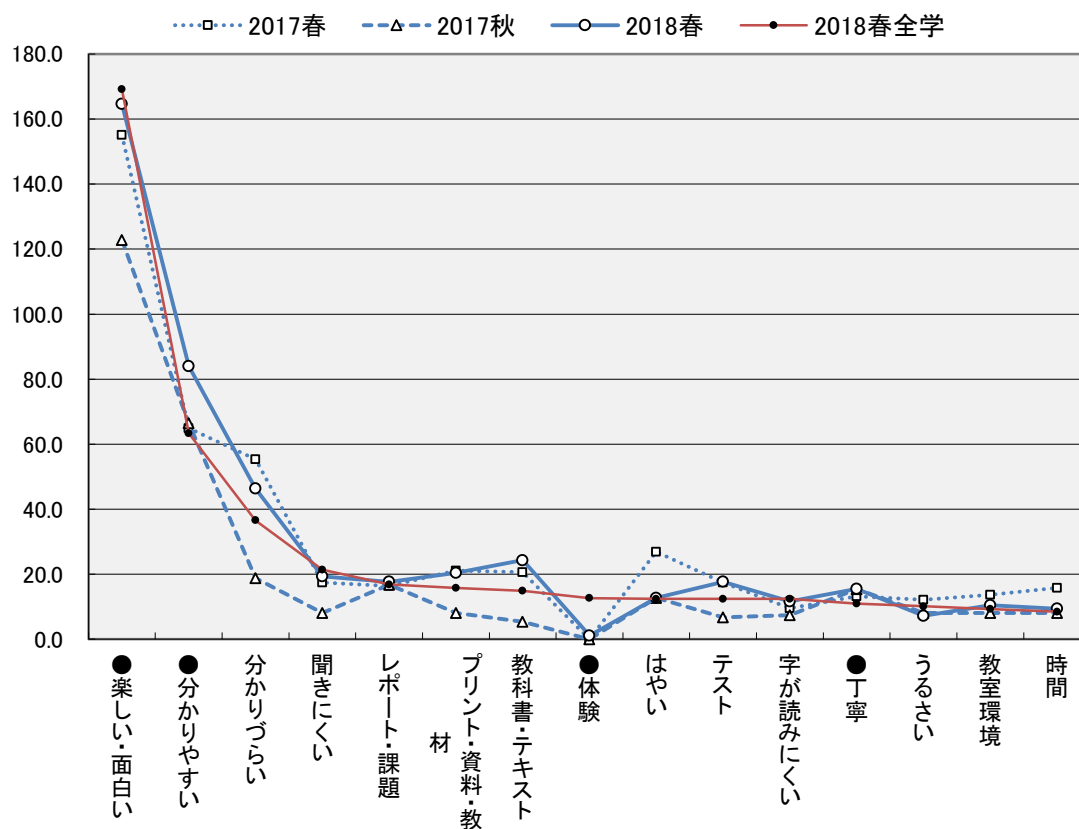


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】回答人数帯別

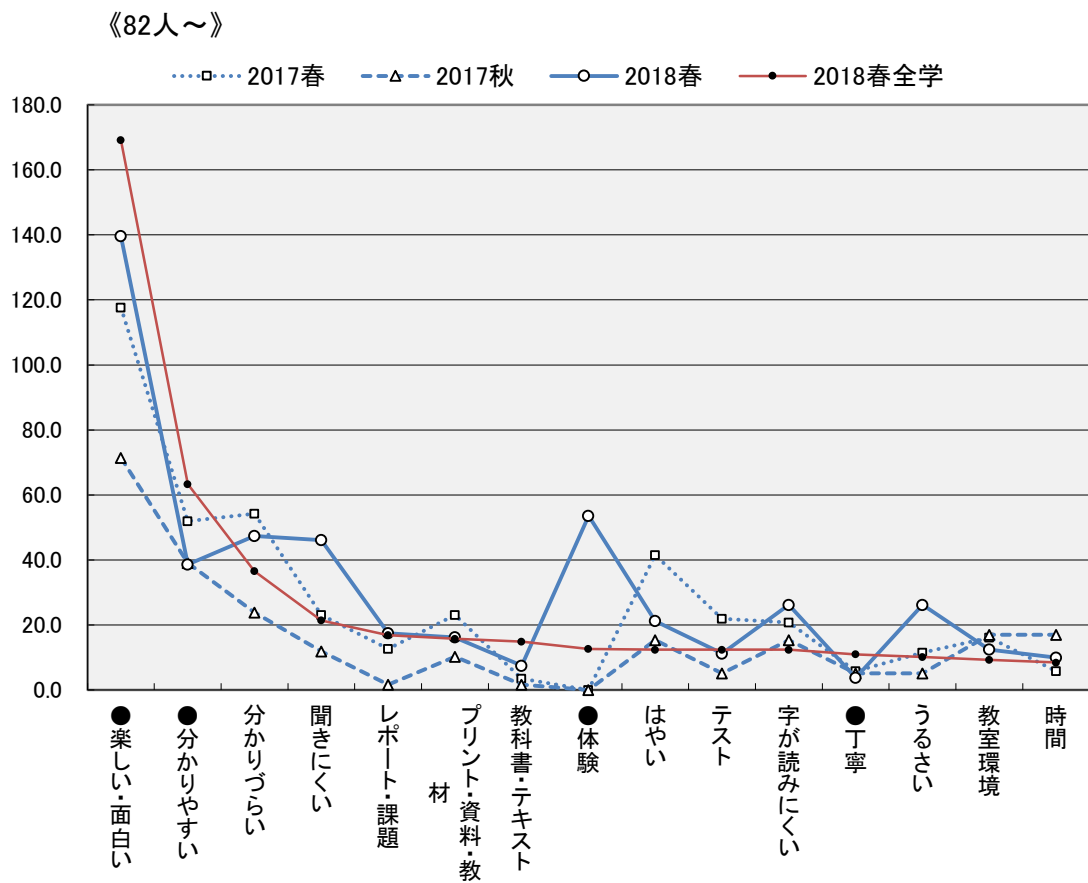
《10～27人》



《28～81人》

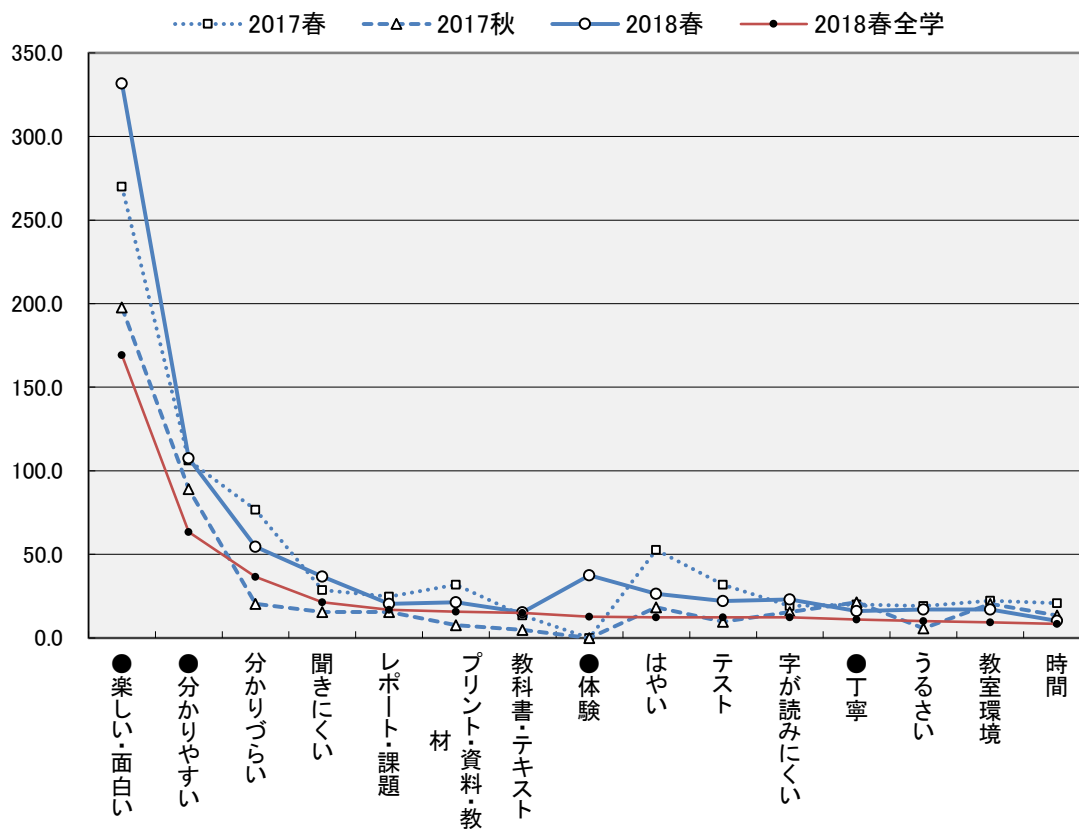


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】回答人数帯別

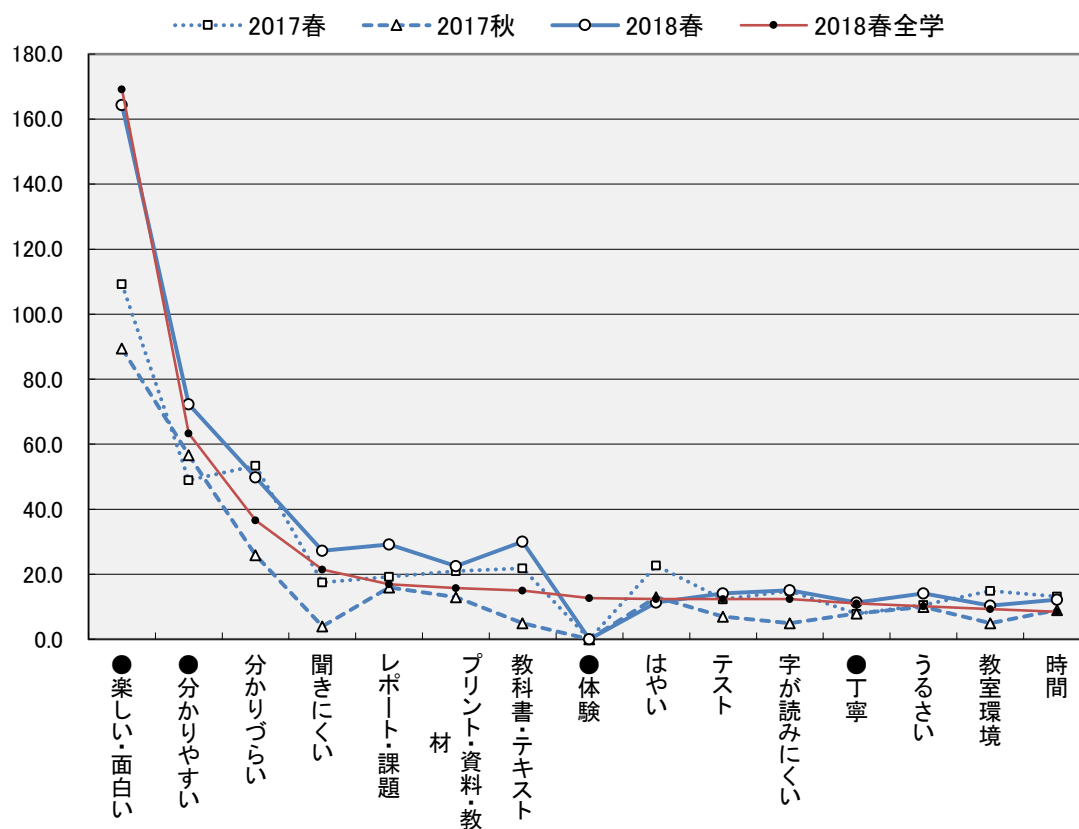


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】学年別

《1年》

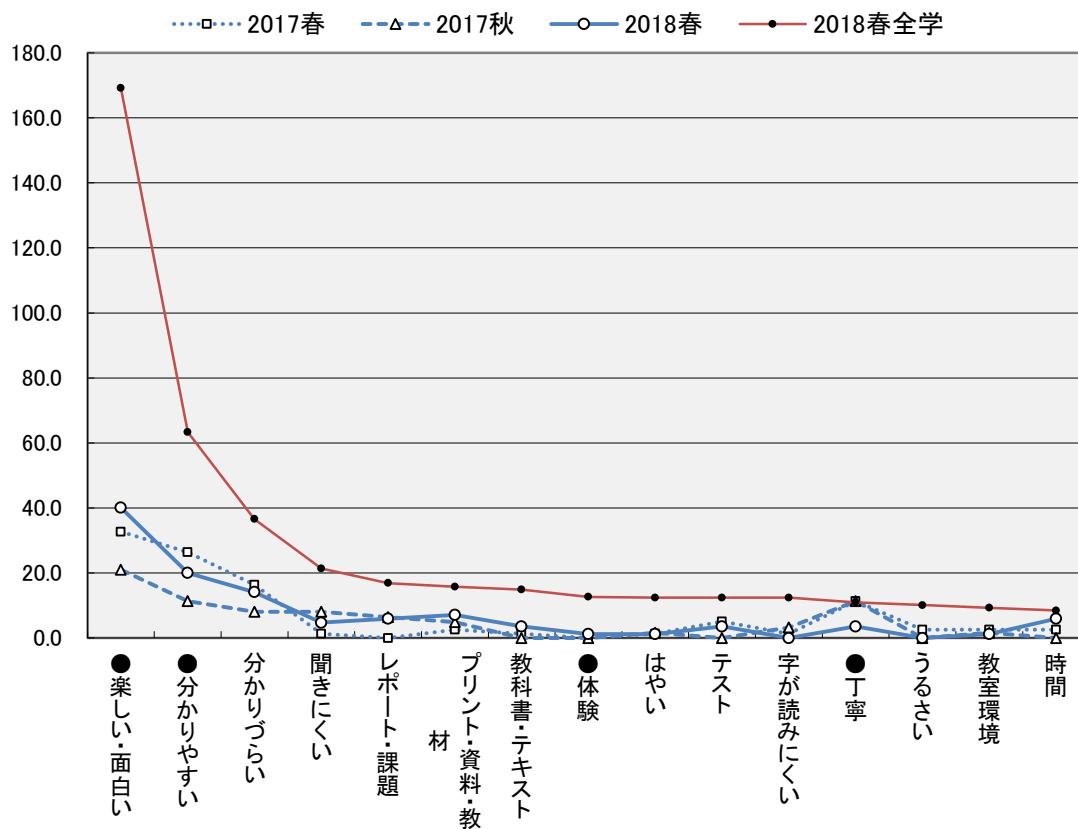


《2年》

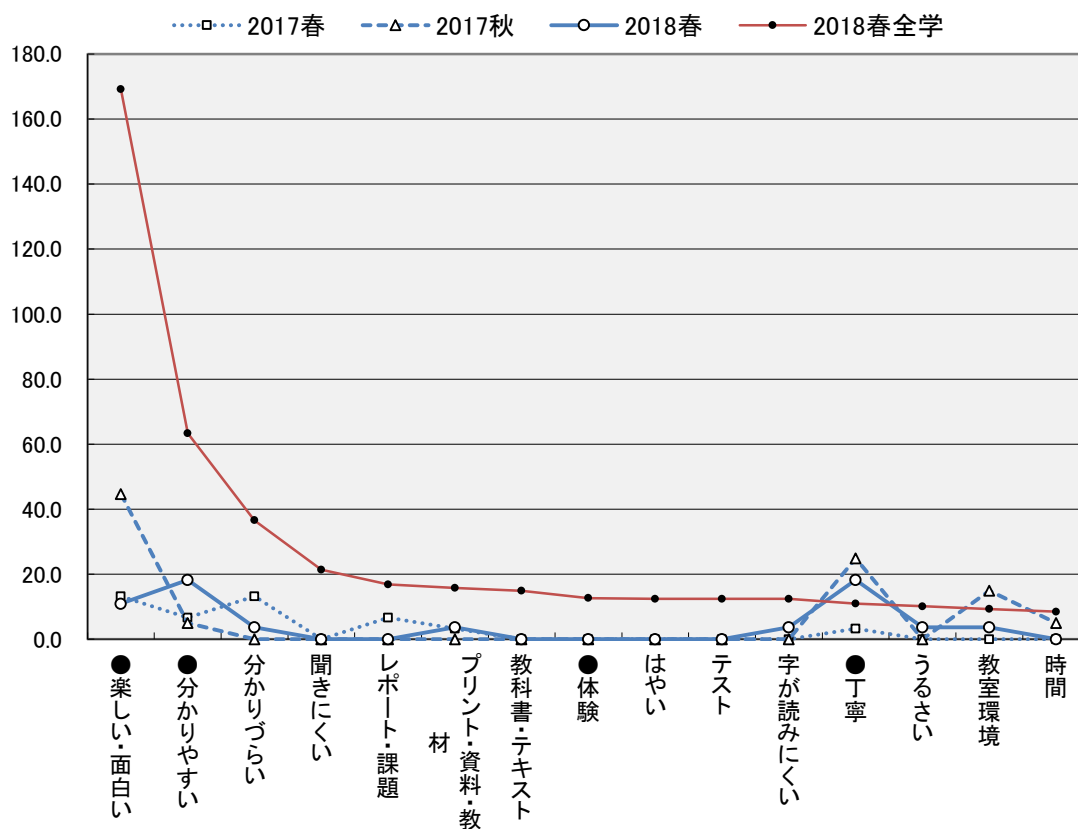


自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】学年別

《3年》



《4年》



自由記述回答 頻出キーワード  
【出現率前回比較】学年別

